財団法人 東洋文庫年報

平成2年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 平成2年度

目　　次

I 図書事業 …… 1

1. 図書資料の収集 …… 1

2. 図書資料の保存整理 …… 2

3. 図書資料の利用 …… 2

4. 研究資料複写サービス …… 5

II 研究事業 …… 6

1. 調査研究 …… 6

i 文部省科学研究費による調査研究 …… 6

ii 一般調査研究 …… 13

iii 特別調査研究 …… 16

iv その他の研究助成金による事業 …… 17

v 研究委員会 …… 20

2. 学術図書出版 …… 21

3. 講演会 …… 22

4. 研究会(東洋文庫談話会) …… 24

5. 展示会 …… 24

6. 研究者養成 …… 24

7. 学術情報提供 …… 24

i 研究者の交流及び便宜供与サービス …… 24

ii 研究会等への会場提供サービス …… 29

iii　研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス …… 29

iv　参考情報サービス …… 29

8.　職員の研究業績 …… 30

III　業　務　報　告 …… 48

1.　総務報告 …… 48

2.　人事報告 …… 50

IV　役 職 員 名 簿 …… 52

1.　役　　員 …… 52

2.　東洋学連絡委員会委員 …… 54

3.　名誉研究員 …… 54

4.　職　　員 …… 55

5.　臨 時 職 員 …… 58

V　東 洋 文 庫 維 持 会 …… 62

VI　財団法人東洋文庫附置
　　ユネスコ東アジア文化研究センターの事業 …… 63

1.　情報活動 …… 63

2.　研究成果の英文出版 …… 66

3.　調査研究及び普及活動 …… 67

4.　業務報告 …… 69

5.　役職員名簿 …… 73

付　表

「財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧」…… 45～47

「財団法人東洋文庫東洋学連絡委員会委員略年表」 …… 59・60

「財団法人東洋文庫組織図」…… 61

I 図 書 事 業

1. 図書資料の収集

購入・交換・寄贈によって収集した資料は，一般文献資料・中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料・東南アジア特別研究資料・チベット特別研究資料・近代中国研究資料があり，昨年度より11,655冊増加して蔵書数は737,160冊となった。

●資 料 購 入

	和漢書	洋 書	マイクロ・フィシュ	マイクロ・フィルム	計
	冊	冊	枚	巻	
一 般 文 献 資 料	126	87	0	0	213
中央アジア特別研究資料	4	270	0	0	274
東アジア特別研究資料	1,780	30	175	72	2,057
西アジア特別研究資料	0	350	0	0	350
東南アジア特別研究資料	0	82	0	0	82
チベット特別研究資料	62	6	0	0	68
近代中国特別研究資料	897	60	0	0	957
計	2,869	885	175	72	4,001

●資 料 交 換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
	冊	冊	冊	冊	冊	冊
単 行 本	1,594	349	1,943	1,400	1,936	3,336
定期刊行物	4,704	1,254	5,958	2,112	1,606	3,718
計	6,298	1,603	7,901	3,512	3,542	7,054

2. 図書資料の保存整理

●補修再製本・製本

①

	単行本			
	和装		洋装	革製本保全
数量	裏打 273葉	18冊	544冊	15点

②

	定期刊行物	製帙	複写資料製本			その他
数量	1,069冊	173帙	和装 403冊	洋装 146点	26,522折	71点

●撮影・焼付

	撮影齣数	焼付引伸数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数量	35,080コマ	18,195枚	122リール	294葉	5件

●新着図書目録の刊行

東洋文庫が1989年4月から1990年3月までの間に収集した和書・中国書・朝鮮書・近代中国和書・近代中国中国書の書名目録第38号が刊行された。

3. 図書資料の利用

●図書閲覧状況

平成2年度の所蔵図書の閲覧状況は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比(△印は減)	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比(△印は減)
4	22日	230人	10人強	11人	3,118冊	142冊弱	△148冊

5	20	266	13強	△17	3,108	105強	△1,343
6	23	334	16強	17	3,361	146強	△958
7	23	393	17強	86	6,799	295強	1,791
8	24	537	22強	57	9,583	399強	106
9	21	337	16強	△46	3,767	179強	△2,259
10	23	347	15強	△87	3,648	159弱	△2,339
11	20	368	18強	△43	4,326	216強	△3,340
12	20	332	17弱	△39	4,158	208弱	△649
1	19	220	12弱	6	3,286	173弱	△127
2	21	250	12弱	14	2,980	142弱	△1,036
3	22	251	11強	△31	4,000	182弱	131
計	258日	3,865人		△72	52,134冊		△10,171

●閲 覧 図 書 数 内 訳

月	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	136	214	424	2,641	168	263	728	3,118
5	234	390	465	2,339	165	379	864	3,108
6	233	374	480	2,501	247	486	960	3,361
7	258	517	709	5,613	268	669	1,235	6,799
8	427	684	1,226	8,179	395	720	2,048	9,583
9	327	502	598	2,978	177	287	1,102	3,767
10	246	434	656	2,848	176	366	1,078	3,648
11	276	485	510	3,352	226	489	1,012	4,326
12	314	714	643	3,043	206	401	1,163	4,158
1	197	459	390	2,546	149	281	736	3,286
2	147	370	455	2,103	257	507	859	2,980
3	264	870	480	2,903	121	227	865	4,000
計	3,059	6,013	7,036	41,046	2,555	5,075	12,650	52,134

●展示会等への資料の貸出

博物館・美術館等が主催して行う展示会への貸出しは8件あり，貸出資料は合計72点であった。展示会名，主催者，展示期間，開催場所，おもな資料名と数量は次のとおりであった。

展示会への資料の貸出一覧

	展示会名	主催者	展示期間	開催場所	主な資料名と数量
1	光悦の書	大阪市立美術館	平成2.5.19—6.1	大阪市立美術館	百人一首　2
	仝	仝	平成2.6.2—6.15	仝	伊勢物語　2
2	日本の医学の歴史展	第11回国際腎臓学会議	平成2.7.16—17	高輪プリンスホテル貴賓館	桃山時代・五臓図　1
3	JAPAN：A HISTORY IN BOOKS	フランクフルト「日本年」実行委員会	平成2.10.3—10.8	コングレスハーレー	無垢浄光経陀羅尼集他　45
4	扇絵	和泉市久保惣記念美術館	平成2.10.10—10.23	久保惣記念美術館	扇の草子　1
5	南蛮の美術	埼玉県立博物館	平成2.10.18—11.12	埼玉県立博物館	東方見聞録　1
	仝	仝	平成2.11.12—12.10	仝	遍歴記　2
6	対外交流史Ⅰ	福岡市博物館	平成2.10.17—11.25	福岡市博物館	上川島ザヴィエル墓誌他　16（同一物の出品は2週間）
7	鷹見泉石と洋学	古河歴史博物館	平成2.11.3—11.16	古河歴史博物館	ダンカン銅版画　1
8	源頼朝	熱田神宮宝物館	平成3.1.1—1.14	熱田神宮宝物館	義経記　1

4. 研究資料複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行なったもので，実績は下記の通りであった。

●マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
819件	103,317	107,172	12,381

●電子複写

申込件数	焼付枚数
939件	92,100枚

II 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は，文部省科学研究費補助金によるものと，国庫の補助金による一般・特別調査研究と，並びにその他の研究助成金によるものとにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究 (A)

【課 題】 チベットの歴史・宗教・言語・民俗に関する基本的資料の総合的研究

【期 間】 平成2年度 (3ヶ年継続事業最終年度)

【目 的】 1959年のダライラマのインド亡命を契機として約10万のチベット人がチベットからインド・ネパール・ブータンに亡命したが，それに伴い，大量のチベット語文献，多くは版本，一部は写本がそれら三国に運び出された。それらチベット語文献は，チベット及び周辺地域の歴史・宗教・言語・民俗に関する貴重な資料であったが，幸いにも，主としてアメリカ国会図書館のデリー収書センターの指導と援助により次々に複製刊行され，それによって近年チベット研究は世界的規模において著しく進展した。わが国においても，東洋文庫をはじめ関係研究機関によりそれら複製本の収集・整備が図られてきたが，各機関での収集にばらつきがあり現状ではいずれも目的を達成したとは言い難い。これら複製本の出版は，各冊小部数であるうえ，品切れの後の再刊は殆ど期待できない。そのため，現在では入手不可能となった文献も多く，このままではせっかくの複製本も，利用の道が閉ざされてしまうことになりかねない。そこで日本チベット学会の急務として，我国において唯一チベット学専門の研究室を有し，長年日本におけるチベット研究センターの役割を果たしてきた東洋文庫による網羅的収集と組織的整備が要望されている。

本研究組織は，上述の状況を踏まえ，関係研究機関とも密接な連絡をとりつつ，上記複製本の収集・整備を進め，チベット周辺諸地域の歴史・

宗教等の専門研究者の参加を求めて，それら収集文献の，より広い視野に立った効果的な利用方法を確立し，わが国におけるチベット研究の推進に寄与しようとするものである。

【事　業】① インド，ネパール，ブータン等におけるチベット語文献複製本の出版状況・在庫等の調査の継続：現在入手可能な文献の情報を引き続き調査した。

② 関係諸機関における複製本の収集整備状況の調査の継続：国内各関係機関がすでに購入したチベット語文献を，各種目録ないしは実地調査し，情報を収集した。

③ 東洋文庫購入の文献についての検討および収集の継続：上記①②により，東洋文庫として購入・収集すべき文献を選定し，現在入手可能な文献については，可能な限り，購入する。更に複製出版本以外にも関係諸機関に所蔵されていながら十分な利用体制が調っていない文献について調査し，可能な限りマイクロ・フィルム等で収集し，その利用方法などについても検討した。

④ チベット語文献総合目録作成：本年度は最終年度にあたり，今回新たに収集した文献と東洋文庫が以前から所蔵していた文献（木版写本を除く）を，パソコンを十分に活用し，既成のソフトのみならず，新たなプログラムも作成して整理した。また，入力した情報をもとにして東洋文庫所蔵のチベット文献の総合目録を作成した。チベット語文献をできるだけ有効に活用する方法を検討するという本研究課題の目的意識のもと，本目録は以下の二点において工夫をこらした。

第一に目録の各項目には著者名と著者の生没年，チベット文タイトル，英文タイトル，編集者，出版年，出版地，サイズ，ページ数など多数の情報を省略することなく収録した。第二に配列については，利用者の便宜を考慮して，宗派・ジャンル（歴史，文学，文法学，医学など）によって章を分け，各章ごとの配列は著者名（著者名のない本については書名）のアルファベット順により，レイアウトにも利用の便を考慮して工夫をこらした。このため本目録の利用者は，目的の宗派やジャンルの章を通覧することにより，容易に目的の本の所在を把握することができるようになった。その他，収集できなかった図書の欠を補うものとして，アメリカで刊行されているチベット語文献のマイクロ・フィッシュを，最新刊のセットに至るまで入手した。この結果図書とマイクロ・フィッシュを併せることにより，これまで刊行さ

れたチベット語文献の大部分を収集することができたと言える。これらは全て一般の研究者の利用に供される。

【代表者】 福田洋一研究員

【分担者】 歴史分野担当 （収集文献の文献学的調査・目録編集）
山口瑞鳳，松村 潤，山崎元一
言語・民俗分野担当 （収集文献の文献学的調査・目録編集）
北村 甫，原 實
宗教分野担当 （東洋文庫未収集本の収集・目録編集）
川崎信定，立川武蔵，松濤誠達

一般研究 (B)

【課 題】 三国志に記された東アジアの言語および民族に関する基礎的研究

【期 間】 平成２年度 （３ヶ年継続事業初年度）

【目 的】 戦後何度か日本人の起源が問われ，その都度日本語の起源が問い直されたが，日本語の起源は今のところ結局不明のままに終わっている。その起源の無益な論争よりも，日本民族が古代の東アジア（中国東北部・朝鮮半島及び日本列島）に出現したとき，その周辺にいかなる民族が居住し，いかなる言語を話していたかを探究することの方が，日本語の前史を明らかにする上で重要である。それを知る上で最も貴重な資料が中国の史書『三国志』である。

『三国志』は，その中に東夷伝倭人の条（いわゆる魏志倭人伝）を含むことからも明らかなように，当時の倭その他の民族の諸状況および中国との関係を探る上で，最も基本的な文献である。本研究では，三国志の成立と伝承をめぐる諸問題の再検討の，ならびに本文批判の基礎の上に，当時の東アジアの言語と民族についてさまざまな角度から探究することを目的とする。

【事 業】 ① 宋代の類書である『太平御覧』（李昉奉勅撰，中華書局景印本）1,000巻に「魏志」の関係記事が多数引用されているので，その『太平御覧』所引の「魏志」の記事を全て抽出し，それと現行刊本『三国志』中の関係記事とを彼此対校することにより，関係記事の有無および字

句の異同等を見出し，できる限り本来の『三国志』の「魏志」の原本に近いテキストを整理・復元することを試みた。

② ①で得られた基本原稿内の『太平御覧』所引の「魏志」に訓点をほどこす作業を行なった。

③ ①で得られた「魏志」の記事各々について，刊本『三国志』中の「魏志」の中から，特に異同の多い箇所を検索・対比し，パソコンにより当該箇所を入力し，一覧表・索引表の作成に取り組んだ。

④ ①で得られたテキストにより，「魏志」「烏丸鮮卑東夷伝」に記されている諸民族のそれぞれを採り上げ，その民族に関する情報をその『三国志』の記事から，能うかぎり読み取り，この方面の過去の研究成果を参考にしつつ，一応の結果を得た。この結果に基づき，他の中国・朝鮮・日本の様々の史書を検討することによって，その結果を是正し，又，その後の民族の発展を追求しようとするため，これらの史書から抽出して，これをコンピューターに入力する準備を行なった。すなわち，民族名・地名・人名および普通名詞を能うかぎり収採することにし，その項目の選定に当った。

【代表者】 河野六郎研究員

【分担者】 言語・音韻班；亀井　孝，古屋昭弘
民族・歴史班；松村　潤，武田幸男
歴史・考証班；石川重雄

総合研究 (A)

【課　題】 宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の研究

【期　間】 平成２年度 （２ヶ年継続事業初年度）

【目　的】 宋より明清に至る科挙・官僚制の研究は近年盛んとなりつつあるが，未だにその緒についたばかりであり，総合的な把握まではいたっていない。それは一つには，一王朝内の研究でも未開拓の分野が少なくないからである。たとえば，宋の銓衡制の基本文献である永楽大典吏部条法は，最近，研究の手がかりは与えられつつあるが，読解されないまま残されている部分も依然多い。二つには，各王朝の研究成果が比較検討されていないからである。各王朝の個々の研究成果に鑑み，今日，上記二つの

作業は並行して進められなければならない。われわれは永年，宋史選挙志の資料批判に当ってきたが，これには宋より明清に至る研究者の参加を得ている。そこで本研究では，それら研究者を動員し，宋史などの選挙志の資料批判を徹底させ，同時にその成果を基にして宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の変遷について解明しようとするものである。

【事　業】① 宋代班・元代班・明代班はそれぞれ『宋史』・『元史』・『明史』の選挙志本文を，『宋会要輯稿』その他の基本資料によりつつ，解読してきた。その結果，各選挙志は概ね，各王朝の科挙制度を詳述しようとしたものであり，他に見られない独自の資料をも含むが，なお整理不十分なものであることが判った。『宋史』を例に挙げれば，その選挙志は諸資料に依りながら，大部分は馬端臨の『文献通考』の要約を借りており，その結果，『文献通考』にない南宋後半部分は著しくまとまりが悪いこと，科目については，南宋初めの箇所に繫年の混乱があること，銓法の初めの部分にて，選考制度の変遷の概観が十分でないこと等である。

② 『宋史』本文の校訂は，従来なされることがなかったが，最近，食貨志・刑法志等を初めとして，徐々に試みられつつある。その代表的なものは，中華書局標点本『宋史』（1977年刊行）であるが，選挙志解読の結果，標点本にも校訂漏れ，句読点の誤り等，不備なところが幾多あることが判明した。

③ 設備備品費により，『続資治通鑑長編語彙索引』・『中国随筆索引』等を購入し，研究に多大の便宜を得たが，なお宋代史の基本資料である『宋会要輯稿』の語彙索引は刊行されていない。われわれはその選挙の部分の索引を作成した。

④ 『元豊官志』の索引を作り検討したところ，『宋史』職官志と似ていることが判明した。

⑤ 『宋史』選挙志・『宋会要輯稿』等の科挙関係の語彙に解説を施し，『中国歴史大辞典・宋史』の該当語彙（大部分，朱瑞熙執筆）に批判・検討を加えた。

【代表者】 中嶋　敏研究員

【分担者】 宋代班・宋史選挙志科目分担；佐伯　冨，千葉　昬，柳田節子
竺沙雅章，斯波義信

宋代班・宋史選挙志銓法分担；渡辺紘良，近藤一成，石田　肇
長谷川誠夫
元代班・元史選挙志分担；相田　洋，鈴木立子
明清班・明史選挙志分担；山根幸夫，安野省三

奨励研究（特別研究員）

【課　題】 社会的分業及び経済政策から見た清代中国の市場構造研究

【研究者】 山本　進（日本学術振興会特別研究員）

【期　間】 平成２年度　（２ヶ年継続内定初年度，２ヶ年目就職のため辞退）

【目　的】 中国史の中で，清代は商品経済が最も発達した時代であると従来位置付けられてきた。しかし，その内実については，部分的に解明されているに過ぎない。本研究では，中国各省・各地域間の商品交換＝分業関係，及び商品流通の発展によって変化する経済政策，の二つの視点から清代商品経済（市場）の構造的特質を解明することを目的としている。

社会的分業については，華北東部地域（奉天・直隷・山東など）内部における糧食や木綿などの流通とその変化，及び江南との物流関係を明らかにする。経済政策については，華北東部地域における主たる輸送体系が大運河（河運）と牛荘・天津・山東半島などを連絡する海運であったことから，河運面では国家的流通機構である漕運制度の変遷を，海運面では国家の流通機構として機能した海禁政策の推移を，それぞれ検討し，専制国家の市場支配について考える。

【事　業】 本年度は，政書・地方志等を史料として清代中国の地域間分業とこれに対応した国家の流通政策について研究し，以下の成果を得た。

① 華北における木綿・主穀市場の形成と漕運制度の変遷について，清代中期以降山東省西部では木綿の商品生産が発展し，棉花・棉布を移出して食糧を移入する分業関係が形成された。主な移出先は奉天であったが，奉天の主たる移出品は江南向けの大豆であり，山東へ食糧を移出することは少なかった。そのため，国家が江南から北京へ輸送した漕米が密かに山東へ逆流出する回漕現象が発生し，漕運制度は次第に非効率になっていった。そこで国家は河運を海運に切り換え，民間の沙船に漕米を運ばせて，輸送効率の改善を図った。漕運の民間への

委託化は，国家流通の中に商業流通をとり込んだ政策として高く評価される。しかし山東の民間主穀需要と較べ，北京の官需要の相対的低下は如何ともし難く海運もやがて商業流通に呑み込まれ，国家流通は最終的に解体された。

② 四川における移入代替棉業の形成と地域経済の自立化について。四川では清初まで湖北木棉を移入していたが，乾隆末以降四川西部で土着の棉業が勃興すると，この地域では木棉が移入されなくなり，湖北木棉は四川省東部・南部でしか流通しなくなった。土着木棉と湖北木棉との対抗関係は，商品流通の結節点である巴県（重慶）で最も顕在化した。最終的には移入棉布の仲介業者である布行は土布流通に参入できなくなり，没落してゆく。土布およびこれを収買する土布舗の勝利は，四川経済が全国市場から自立化しつつあったことを意味している。なお，この研究では四川地方志の外，1990年9月に刊行された「巴県檔案」に大いに依拠した。

【課　題】 諸民族の侵入とイスラム化の進行に伴う北シリアの社会構造の文献学的研究

【研究者】 太田敬子（日本学術振興会特別研究員）

【期　間】 平成2年度　（2ヶ年継続内定初年度）

【目　的】 近年，我が国における中東研究が目ざましい発展を遂げているのは周知の事であるが，同地域の前近代の社会構造については，「イスラム社会史」「イスラム都市論」という観点からのみ論ぜられる傾向が強い。また利用されている資料としてもアラビア語（地方によってはペルシア語）文献だけに依る事が多い。しかし，今後更に同地域についての研究のレベルを向上させるためには，イスラム以前の時代からの一貫した歴史把握と，各地方の歴史的特殊性を考慮に入れた地方史研究が重要となろう。

そこで本研究は中東の中でも，ヘレニズム文化・東方キリスト教文化のかつての中心地であり，イスラムの侵入以前から文化的先進地域であった北シリアについて，同地の文化的・民族的多様性を重視し，その歴史を再構成する事，そしてそのためにアラビア語だけでなくマイノリティー諸言語を含めた史料を収集，整理，分類して北シリア中世史についての総合的な史料体系化をする事を本研究の目的としたい。

【事　業】 本年度の研究成果としては，まず年度初めに立てた研究計画に則っ

て北シリア及び北イラクのイスラム世界とビザンツ帝国領域の国境地帯の歴史に関する史料・参考文献の文献目録制作と収集と整理を並行的に行った。それに加えて収集した文献を広範囲な社会史研究に役立てていくための準備段階として地域・時代的に非常に限定された研究対象を設定して試論的考察を試みつつある。というのは広範囲な研究資料の収集を行うことによって問題意識が不明瞭になり散漫な文献蓄積に終始してしまうことを防止し，さらに一つの事象を深く検討することを通していままで気づかなかった分野の参考文献を発掘するためである。

① 史料・参考文献に関する基本リストの作成，史料収集及びその整理。文献資料を(1)古典期の史料(2)近代の研究書(3)研究論文に大別し，(1)はさらに言語別（①アラビア語，②ギリシア語，③シリア語，④アルメニア語，⑤ヘブライ語）と性格別（①年代記，②地理書・地誌，③伝記集・人物辞典，④法学・宗教書，⑤その他）に分け，(2)(3)についても言語別（①日本文，②欧文，③現地諸語），性格別に分類し，入手・未入手に係わらずに研究に利用し得ると考えられる文献の基本リストを作成していった。この分類に則って史料収集を行い，入手史料は内容を検討した上で再分類して，史料の特徴・内容をも付加したカードを作成していった。文献収集に関しては約70程度を入手または注文できたと考えられるが，分類カードを作成してパソコン入力する作業は分類に手間取り，アラビア語文献以外は来年度となろう。

② 試論―北シリア山岳部住民社会のイスラム征服戦争を通じての変動についての研究。

収集資料を中心に欧文の先行研究をまとめ，それを基にして現地語史料を収集・再検討して実際の資料運用の例証的研究を試みつつある。

ii 一般調査研究

本年度は，特に，清代史（満蒙）研究委員会，東亜考古学研究委員会を中心に調査研究を行った。

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真，実測図，拓本，野帖等）の整理とその目録（III――日本之部・中国之

部――）の作成。（前年度の継続）なお，東亜考古学関係工具書16冊を購入した。

古代史研究委員会

【資料の整理】 東洋文庫所蔵中国画像名，造像名，墓碑銘拓本の整理研究。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究】 ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と，マイクロフィルムによる収集・整理。

② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献の公開，および情報の提供。

③ 『敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集Vol. IV――社文書――(A)Texts』の編集・刊行。

④ 『吐魯番等出土漢文文書研究文献目録』の編集・刊行

⑤ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上，前年度の継続）

12月22日(土) 田中良昭，土肥義和，京戸慈光「第2回敦煌学国際学術討論会に出席して」

1月19日(土) 池田 温「トルファン古写本展について」

梅村 坦「国際カーレイズ学会（ウルムチ1990年8月，ヨーロッパのウイグル文書調査の旅）」

2月16日(土) 関尾史郎「中央アジア諸地域から出土した唐代の領抄文書（納税抄）とその周辺」

3月16日(土) 東山健吾「第2回敦煌学国際学術討論会（石窟考古・芸術部会）に参加して」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 『宋史選挙志の譯註』の作成。

② 『宋史食貨志』研究，訳注の作成。（以上，前年度の継続）

③ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

④ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。

明代史研究委員会

【資料の整理・研究】『万暦野獲編』（元明史料筆記叢刊之一）を主として，明代社会経済に関する文献の講読・研究。（隔週，研究会の開催）（前年度の継続）

清代史研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 「東洋文庫所蔵鑲紅旗檔 乾隆朝II」の整理・研究。

② 『崇徳三年満文檔冊』の講読研究会の開催。(隔週，研究会の開催)(以上，前年度の継続)

近代中国研究委員会*

【資料の整理・研究】 ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。

② 戦前期日本の中国調査資料の研究。

研究会の開催

11月24日(土) 草野 靖「中国前近代社会経済史の研究と近代の経済調査」

曽田三郎「外交史料館所蔵の中国地方議会関係史料について」

③ 日中現代史研究会の開催。

10月 4 日(木) 臼井勝美「張学良にインタヴューして」

12月22日(土) 西村成雄「張学良をめぐる諸問題」

3 月14日(木) 光田 剛「張学良の華北支配，1930—31」

④ 『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録——中国文II——』の編集・刊行。(前年度の継続)

日本研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題 (II)』以降の作成。(前年度の継続)

② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

② 漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・整理・研究】 ① 『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。

② 『東洋文庫所蔵アラビア語，トルコ語・オスマン語文献目録 (補遺)』の作成。

③ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。(以上，前年度の継続)

7 月 7 日(土) 花田宇秋「イスラム国家の起源」

11月24日(土) 帯谷知可「フェルガナにおけるバスマチ運動1917—1924」

④ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

⑤ イスラム社会の構造の研究。

⑥ 隊商貿易史の研究。

⑦　トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会*

【資料の収集・整理・研究】　①　東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。

②　チベット学に関する研究会の開催。（以上，前年度の継続）

南方史研究委員会

【資料の収集・整理・研究】　①　東洋文庫所蔵インド学関係資料（辻文庫図書）の整理とその分類目録及び索引の作成。

②　東南アジア関係資料の収集・整理・研究。（以上，前年度の継続）

（なお，＊印の付してある研究委員会の事業は，iii　特別調査研究　の事業を別途に行っている。また，共用の参考図書資料27冊を購入した。）

iii　特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目　　的】　チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】　チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

1)　チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者（ゲールク派・デプン寺ゴマン学堂長　Kenpo of Gomang Datsang College) Tempa Gyaltsen氏の協力のもとに下記の作業を進めた。

①　東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂の資料として，各文献の奥書を収集し解読，分析を進めた。

②　現代チベット語について口語資料を収集し，記述的研究を進めた。

③　トゥカン『一切宗義』「ゲールク派」の章の邦訳・訳注を準備した。

④　トゥカン『一切宗義』「カーダム派」の章の機械処理を進めた。

⑤　サキャ・パンディタ『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。

⑥　『スタイン目録』注記篇の調査・編集を進めた。

⑦ 『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』Vol. 3の調査・編集作業を進めた。

2) チベット文献の収集・整理

区　分	和　漢　書	洋　　書
数　量	62冊	6冊

3) 研究成果の刊行

① 『チベット論理学研究　第3巻』　B5判　1冊　(刊行済)
② 『チベット民間歌謡集　第1巻』　B5判　1冊　(刊行済)
③ 『チベット特別調査研究年次報告』　A5判　1冊　(刊行済)

近代中国特別調査研究（近代中国研究委員会）

【目　　的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

1) 共同利用研究
2) 情報交換および参考業務　(近代中国研究事務室において常時遂行)
3) 図書資料の収集・整理

区　分	和　漢　書	洋　　書
数　量	897冊	60冊

4) 研究成果の刊行

① 『近代中国研究彙報　第13号』　A5判　1冊　(刊行済)

iv　その他の研究助成金による事業

三菱財団人文科学研究助成金特別事業　(日本研究委員会)

【課　題】　岩崎文庫所蔵和漢貴重古典籍に関する書誌学的総合調査研究　[研究代表者：亀井　孝]

【期　間】　平成２年度　（昭和63年度・平成元年度継続事業，３ヶ年間終了）

【目　的】　モリソン文庫と並んで東洋文庫の蔵書の一方の中核を成す岩崎文庫は，岩崎久弥の蒐書にかかる善本貴籍の宝庫として夙に著名であり，種々の学問分野に於ける第一級資料に富む。しかし，その蒐書全体に亘る本格的基礎調査は現在までの所，未完成である。その理由は，蒐書全体が余りにも厖大で，調査には容易ならざる費用と時間と努力とを要することにあった。夙く昭和九年にほぼ全体を収めた書目『岩崎文庫和漢書目録』が公刊されているが，これは殆ど書名と冊数のみの羅列に等しく，何らの書誌学的データを含まないので，これを以て所掲の文献を正しくアイデンティファイする事は事実上不可能であり，その故にこれを参照しようとする研究者達にとっては極めて不便なものに留っている。その上，目録の記述それ自体，今日の学的水準から見て明らかな誤りや疑問の点も多く，なお遺漏も少なくない。しかし当時の書誌学の水準を考えれば，それも仕方のない事であった。幸いに近年書誌学は長足の進歩を遂げ，参考書の整備・写真技術やコンピューターの進歩等の条件も整い，学問の諸分野の基礎となる精密な書誌学的研究が可能となった。昭和63年度，平成元年度の両年，貴財団助成に依って，我々は書誌調査を進めると共に，研究上の基礎的条件を概ね整備する事が出来た。今後はこれらを駆使して，引続き平成２年度において諸本調査とその結果の整理大成を期し，やがてこれを完成せしめることを得るならば，全国の（就中地方在住の）研究者は居ながらにして本文庫所蔵の概要を知り得る訳であるから，結果として歴史学・哲学・社会学・文学等，多方面に亘り，広く学界を益することは疑いない。

【事　業】　書誌学的調査というのは，単に書物の外形的事実を調査するということをのみ意味するものではない。寧ろその本旨は，対象とする文献の筆写・刊行の次第を精細に調べ，他の伝存諸本と，本文・外形の両面に亘って適切に比較検討する事によって，当該文献流伝史上に於いて該書の位置を明らかにし，以てそれらの文献に係わる諸研究の，その最緊要なる礎石たらしめようとするにある。謂わば，書物・文献を対象とせる社会考古学的基礎研究であると言うことが出来る。そこで亀井孝研究代表者のもとに共同研究分担者は，随時，各分担者の調査結果について，互いに疑問点を提示し検討し，術語法等に関して意思統一を図り，下記の具体的作業を行った。

①　亀井は全体の統括並びに国語学関係資料の一部，分担者の佐竹昭広は

中世文学文献，酒井憲二は辞書等国語学関係並びに歴史学文献，杤尾武は和刻本漢籍並びに準漢籍，石塚晴通は古版本及び古活字版の一部分，柳田征司は中世近世の抄物並びに仏教関係文献，林望は近世文学並びに古活字版，等を中心として各自調査を進め，最終の基礎調査を進めた。

② 本研究プロジェクトは，基礎的な調査が順調に進められ，安土桃山期，江戸初期の文献については，各研究分担者の合同検討会において，既に調査ノートの書式並びに述語法の意思統一がなされ，全体の書誌学的調査を進めた。

③ ついで，江戸期の膨大な各資料の調査と整理については，各文献の巻頭巻末・刊記・序跋・その他書誌学的に問題と認められる箇所を抽出し，合同検討会のもとに出来る限り写真等に拠る複写・書影見本を作成して，他文庫・図書館所蔵の現存諸本と逐一比較し，筆跡・版木の同異等の事実を明確にするなど具体的基礎調査を進めた。

生化学工業株式会社寄付金特定事業　（南方史研究委員会）

【事業名】　東南アジア研究資料収集整理プロジェクト［プロジェクト代表者：山本達郎］

【期　間】　平成元年度～同３年度（３ヶ年計画）

【目　的】　本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金５千万円を以て，東南アジア研究を促進するため，その研究資料を収集・整理し，研究者に公開することを目的とする。

【事　業】　1)　アラステヤ・モリソン氏（Alastair Morrison）の収集した，東南アジア関係研究文献3,281点の整理。

2)　先に寄贈をうけたヴェラルデ文庫（主としてフィリピン関係の研究文献の収集）476点の整理。

3)　そのほか，ビルマ（現ミャンマー），ベトナム等東南アジア諸国に関する研究資料，学術書，学術雑誌等を収集・整理。

榎　一雄記念特定事業

【事業名】 榎一雄記念事業プロジェクト［プロジェクト代表者：河野六郎］

【期　間】 平成２年度～同６年度（５ヶ年計画）

【目　的】 本プロジェクトは榎家よりの寄付金１億円を以て，同家より寄付された故榎一雄理事長旧蔵書の整理を行い，その目録を作成，刊行。

【事　業】 1) 故榎一雄理事長旧蔵書約28,000冊の整理。
2) 故榎一雄理事長を記念するに相応しい事業があればその事業にこの資金を活用。

v　研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は，５部門12研究委員会にわかれる。平成２年度の各研究委員会に所属する研究員，委員は以下のとおりである。

第１部　中国研究

東亜考古学：関野　雄

古代史：越智重明，宇都木　章，兼田信一郎，久保田宏次

唐代史（敦煌文献）：池田　温，菊池英夫，土肥義和，藤枝　晃，松本　明

宋代史：草野　靖，佐伯　富，斯波義信，竺沙雅章，千葉　昬，中嶋　敏
渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺　宏

近代中国：市古宙三，滋賀秀三，田中正俊，本庄比佐子，矢澤利彦
上村希美雄，山本　進，趙　軍

第２部　日本研究

日本：石塚晴通，海野一隆，亀井　孝，酒井憲二，佐竹昭広，田中時彦
杤尾　武，鳥海　靖，林　望，柳田征司，山口謠司

第３部　東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：石橋崇雄，岡田英弘，神田信夫，C.A.ダニエルス
松村　潤，李　格，周　清澍

朝鮮：河野六郎，末松保和，武田幸男，古屋昭弘，森岡　康，山内弘一

第４部　中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村　坦，後藤　明，小松久男，佐藤次高，清水宏祐
志茂碩敏，蔀　勇造，永田雄三，花田宇秋，本田實信
三浦　徹，護　雅夫，八尾師　誠，太田敬子，張　承志

チベット：川崎信定，北村　甫，福田洋一，松濤誠達，山口瑞鳳
テンパ・ゲルツェン

第５部　インド・東南アジア研究

南方史：荒　松雄，池端雪浦，石井米雄，小名康之，後藤均平，原　　實
三根谷　徹，山崎元一，山本達郎，吉岡司郎

2．学　術　図　書　出　版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第72巻第１・２号　　平成２年12月刊　　Ａ５判　　170頁

『東洋学報』第72巻第３・４号　　平成３年３月刊　　Ａ５判　　242頁

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No. 48　　1990年刊　Ｂ５判　　128頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

『チベット論理学研究　第３巻』　　平成３年３月刊　　Ｂ５判　　150頁

『Texts of Tibetan Folksongs　チベット民謡集　Ｉ　』　　平成３年３月刊　　Ｂ５判　　278頁

『チベット特別調査研究年次報告（平成２年度版）』　　平成３年３月刊　　Ａ５判　10頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』 第13号　平成３年３月刊　Ａ５判　100頁

唐代史（敦煌文献）研究委員会（平成２年度特別研究資料出版担当）
『吐魯番等出土漢文文書研究文献目録』　平成３年３月刊　Ｂ５判　512頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録――和書・中国書・朝鮮書・近代中国和書中国書――』 第38号　平成３年３月刊　Ｂ５判　124頁
『東洋文庫書報』 第22号　平成３年３月刊　Ａ５判　102頁
『東洋文庫年報』（平成元年度版）　平成２年11月刊　Ａ５判　77頁
『東洋文庫所蔵ペルシア語文献目録』　平成３年３月刊　Ｂ５判　ix＋519頁
『東洋文庫所蔵チベット語刊本目録（チベットの歴史・宗教・言語・民俗に関する基本的資料の総合的研究）』（昭和63年度・平成元年度・平成２年度文部省科学研究費補助金・一般研究(A)研究成果報告書）　平成３年３月刊　Ｂ５判　５＋285頁
『第64回東洋文庫展示会（展示書等解説小目録）』　平成２年11月刊　Ｂ５判　19頁（付・写真１頁）

3. 講　演　会

春期　東洋学講座　（共通テーマ：聖地巡礼）

第397回 平成２年６月12日(火)
「メッカ巡礼とパン・イスラミズム」 慶應義塾大学助教授　坂本　勉氏

第398回 平成２年６月19日(火)
「伝統への回帰――北インドの集団巡礼に同行して――」
拓殖大学教授　坂田　貞二氏

第399回 平成２年６月26日(火)
「ア・トポスへの巡礼」　東京外国語大学助手　中澤　新一氏

秋期　東洋学講座　（共通テーマ：中国・朝鮮の絵地図を読む）

第400回	平成２年10月９日(火) 「唐代の都城と関所」	京都大学教授	礪波　護氏
第401回	平成２年10月16日(火) 「古地図で歩く李朝時代のソウル」	東京外国語大学助教授	吉田　光男氏
第402回	平成２年10月23日(火) 「目でみる宋代都市」	京都大学教授	梅原　郁氏

特別講演会　(不定期)

第１回	平成２年４月21日(土) 「Remarks on the Protection of Environment in Ancient India According to the Dharmasastra」(「古代インド法典文献にみえる“環境保護”考」)	ハンブルグ大学教授	A. Wezler氏
第２回	平成２年７月７日(土) 「明清時代中国経済の発展と制約」	中国浙江省社会科学院歴史研究所副所長	李　伯重氏
第３回	平成２年７月21日(土) 「我所見到的日本珍蔵漢籍善本」	内蒙古大学蒙古史研究所教授	周　清澍氏
第４回	平成２年12月７日(金) 「イクター制とアラブ社会」	カイロ大学教授	ハサネイン M. ラビー氏
第５回	平成２年12月15日(土) 「回族及びソ連のドンガン族の情況」	中央民族学院教授	胡　振華氏
第６回	平成３年３月23日(土) 「New Archaeological Excavation in Soviet Central Asia and Afghanistan」	ソ連科学アカデミー東洋学研究所古代オリエント部長	ボンガード・レビン氏
第７回	平成３年３月30日(土) 「Is there a Civil Society in Islam ?」	東京大学東洋文化研究所外国人研究員	Modjtaba Sadria氏

4. 研　究　会（東洋文庫談話会）

平成３年３月16日(土)

「辛亥革命と初期社会主義者」　熊本短期大学助教授
私学研修教員　上村希美雄氏

5. 展　示　会（第64回東洋文庫貴重資料の展覧会）

日　時　：　平成２年11月９日(金)・10日(土)

構　成　：　第１部　a）　フェズにおける不動産売買の記録文書（ベラム製）
b）　蔵書保存と課題
第２部　　榎一雄博士関係資料
第３部　　日本中世史関係資料

6. 研　究　者　養　成

インド研究	吉　岡　司　郎	「“Mahābhārata”に見える古典インドの道徳・倫理思想の研究」
中国研究	兼　田　信一郎	「中国四～六世紀江南社会の聚落に関する基礎的研究」
中国研究	久保田　宏　次	「中国社会の社会集団・塢壁の研究」

7. 学　術　情　報　提　供

i　研究者の交流および便宜供与サービス

1)　国内研究者の受入

上　村　希美雄	私学研修教員 熊本短大助教授	「辛亥革命に協力した日本人志士の活動の調査と研究」（熊本短期大学の依頼） （平成２年９月以降下半期間）

山　本　　進	日本学術振興会 特別研究員	「社会的分業及び経済政策から見た清代中国の市場構造研究」（平成２年度１ヶ年間・平成３年度北九州大学就職のため辞退）
太　田　敬　子	日本学術振興会 特別研究員	「諸民族の侵入とイスラム化の進行に伴う北シリアの社会構造の変化の文献学的研究」（平成２年度以降２ヶ年間）

2）外国人研究者の受入

周　　清　澍	内蒙古大学・蒙古史研究所 教授	「蒙古帝国の形成過程」（日本学術振興会の招聘）（平成２年４月以降90日間）
丁　　果	上海師範大学歴史系助手	「近代日中関係及び日本近現代史の研究」（昭和59年10月以降受入中）（私費）
Tempa Gyaltsen	東洋文庫招聘研究員	「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」（平成元年５月以降２ヶ年間・招聘）
李　　格	中国社会科学院歴史研究所 助理研究員	「清初の政治史および清初人物・伝記の研究」（平成２年２月以降２ヶ年間）（中国社会科学院歴史研究所の依頼・私費）
趙　　軍	華中師範大学歴史研究所 副教授	「辛亥革命時期における日中関係史―とくに孫文と日本の関係を中心として―」（平成２年９月以降１ヶ年間）（私費）
張　　承　志	中国社会科学院民族研究所 元助理研究員，作家	「中国イスラムに関する共同企画等」（平成２年11月以降１ヶ年間）（東方学術交流協会の依頼）

3) 研 究 者 の 派 遣

4) 外国人研究者への便宜供与

China (People's Republic)

孫　東臨　中国武漢大学中文系講師
李　大川　中国山東聊城師範学院副教授
施　萍婷　敦煌研究院敦煌遺書研究所々長
陳　国燦　武漢大学中国三至九世紀史研究室副主任，教授
劉　俊文　北京大学歴史系副教授
李　　格　中国社会科学院歴史研究所助理研究員
黄　正建　〃　〃　〃
陳　振中　〃　経済研究所研究員
陳　廷煊　〃　〃　副研究員
朱　蔭貴　〃　〃　経済史研究室副主任
馬　大正　中国社会科学院中国辺疆史地研究中心副主任，研究員
楊　永超　中国社会科学院外事局助理研究員
呉　文銜　北方文物雑誌社主編副編審
王　禹浪　黒龍江省社会科学院歴史研究所助理研究員
周　清澍　内蒙古大学蒙古史研究所教授
唐　文基　福建師範大学歴史系副教授
趙　　軍　華中師範大学　〃　〃
韓　　昇　厦門大学歴史系講師
華　　立　中国人民大学清史研究所副所長，副教授
金　東和　延辺大学中国革命史研究室主任，教授
李　伯重　浙江省社会科学院歴史研究所副所長，副研究員
呂　万和　天津社会科学院研究員
熊　達雲　中国国家人事部行政科学研究所
夏　訓誠　中国科学院新疆生物土壌沙漠研究所々長
鞠　徳源　中国第一歴史檔案館研究員
石　源華　上海復旦大学歴史系
陳　平原　北京大学中文系
薄　音湖　内蒙古大学蒙古史研究所副教授
韓　瑞穂　北京国際関係学院教授
朱　　寰　東北師範大学歴史系教授
趙　徳貴　〃　〃　〃

王　仲田　　東北師範大学歴史系教授
林　徳輝　　上海市檔案館副館長
馬　長林　　〃　　〃　保管二処副処長
馮　紹霆　　〃　　〃　編研室副主任
鄭　祖安　　〃　社会科学院歴史研究所副研究員
榮　新江　　北京大学中国中古文研究中心副教授
潘　慶徳　　〃　外国学者留学生処助理研究員
朱　国炤　　中国社会科学院歴史研究所副研究員
朱　大渭　　〃　　〃　　〃
張　顕清　　〃　　〃　　〃
王　鍾翰　　中央民族学院終身教授
胡　振華　　中央民族学院教授
楊　立強　　復旦大学歴史系教授
王　文楚　　〃　　〃　〃
魏　嵩山　　〃　　〃　副教授
馮　子直　　中国国家檔案局々長
徐　芸圃　　中国第一歴史檔案館副館長
王　　凌　　〃　　〃　　館員
王　家驊　　南開大学歴史系副教授
烏拉熙春　　中央民族学院
朱　世良　　遼寧社会科学院々長
鄭　海麟　　深圳大学副教授
張　　洧　　広州外語学院助手

Korea

朴　漢済　　Seoul大学校人文大学東洋史学科助教授
金　光玉　　〃　　〃　　〃
李　敏鎬　　Seoul大学校人文大学西洋史学科教授
安　秉直　　Seoul大学校経済研究所々長
全　淳東　　忠北大学校師範大学歴史教育科助教授
許　　銘　　韓国学研究院教授
羅　弦洙　　江原大学校歴史教育科助教授
裵　京漢　　釜山女子大学校歴史教育科副教授
金　文経　　崇実大学校歴史系教授
金　　稷　　韓国文化院専門委員
郭　漢益　　〃　　〃

Denmark	
H. Jorgensen	Resarcher, Univ. of Copenhagen.
Egypt	
M. H. Rabie	Prof. Dr., Univ. of Cairo.
M. M. Amin	Prof. Dr., 〃
Germany	
Albrecht Wezler	Prof. Dr., Univ. Hamburg.
Peter Zieme	Dr. Bayer. Akademie der Wissenschaften.
Indonesia	
Riqal Chaniago	Researcher, The National Archives of Indonesia.
Italy	
G. Stary	Prof. Dr., Univ. Venezia.
Jordan	
M. A. El-Bakhit	Prof. Dr., Univ. of Jordan
Poland	
Marek Mejor	Lecturer, Dr., Oriental Institute, Warszawa University.
Morocco	
M. Aafif	Assist. Prof., Mohamed V University Rabat.
Turkey	
Mesin Sozen	Prof. Dr., Istanbul Technical Univ.
U. S. A.	
Lloyd E. Eastman	Professor, Univ. of Illinois.
Richard von Glahn	Associate Prof. UCLA.
David Utz	Associate Prof. Univ. of Pennsylvania.
U. S. S. R.	
S. L. Tikhvinskii	Academician, Dr., Academy of Sciences of the U. S. S. R.
G. M. Bongard-Levin	Dr., Head of Institute of Oriental Studies Academy of Science, U. S. S. R.

ii　研究会等への会場提供サービス

区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	12	14	22	24	10	13	24	19	26	14	28	33	239回
参加人員	132	163	234	218	66	265	387	246	245	123	239	356	2,674人

iii　研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス

東洋学報第71巻第３・４号	500部
東洋学報第72巻第１・２号	500部
近代中国研究彙報第12号	70部
岩崎文庫貴重書書誌解題（Ⅰ）	500部
Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries Vol. 2	100部
東洋文庫欧文紀要第47号など４種	各50部

iv　参考情報サービス

1)　『東洋文庫年報』　平成元年度版　　Ａ５版　　１冊　　（刊行済）
2)　『東洋文庫所蔵ペルシア語文献目録』　Ｂ５版　　１冊　　（刊行済）
　　（中央アジア・イスラム研究委員会担当）

※なお，「図書資料の閲覧（協力）サービス」「研究資料複写サービス」の事業報告については，『Ⅰ．図書事業』の部に便宜上，掲載した。
また，学術情報提供事業における「特定研究資料の収集」「研究資料の補修再製本・製本」については，平成２年度とくに報告することはない。

8. 職員の研究業績

期間：平成2年4月1日～平成3年3月31日まで
略号：①…著書　②…編書　③…論文　④…学会動向　⑤…書評・紹介
⑥…翻訳　⑦…講演　⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

池田　温

③「韓琬『御史臺記』について」（『東アジアの法と社会』，111～138頁，汲古書院，1990年5月），「唐代西州給田制之特徴」（『敦煌吐魯番学研究論文集』，59～86頁，漢語大詞典出版社，1990年6月），「敦煌における土地税役制をめぐって――九世紀を中心として――」（『東アジア古文書の史的研究』，46～70頁，刀水書房，1990年9月），「関于《日本国見在書目録》刑法家」（『中国法律史国際学術討論会論文集』，216～230頁，陝西人民出版社，1990年9月），「李周経受贈帖簡介」（李雲九訳）（『民族史の展開とその文化』上，962～986頁，ソウル，1990年9月），⑤「空前の規模を持つ中国通史，白寿彝主編『中国通史』第一巻導論」（東方111，26～31頁，1990年6月），⑥「施萍亭「敦煌研究院，上海図書館及び天津芸術博物館所蔵の敦煌遺書をめぐって」」（東洋学報72―1・2，87～106頁，1990年12月），「鄧鋭齢「明朝初年出使西域僧宗泐の事蹟補考」」（東方学81，57～70頁，1991年1月），⑧「日本国使人とあだ名された呂延祚」（日本歴史513，35～37頁，1991年2月），「編輯後記」（東方学81，225頁，1991年1月），「トゥルファン古写本展を観る方々のために」（『現代書道二十人展第35回記念トゥルファン古写本展』，朝日新聞社1991年1月）。

石井　米雄

①Yoneo ISHII, Mamoru SHIBAYAMA, Aroonrut WICHIENKHIEW (eds.) *The Computer Concordance to the Law of the Three Seals in 5 volumes.* (Bangkok : Amarin Publications, 1990. 8＋156＋3698頁），②「講座東南アジア学四　『東南アジアの歴史』」（東京：弘文堂，245頁），③「文献学としての東南アジア史」（矢野暢編『講座東南アジア学一　東南アジア学の手法』，東京：弘文堂，1990年，190～207頁），「東南アジアの史的認識の歩み」（石井米雄編『講座東南アジア学四　東南アジアの歴史』，東京：弘文堂，1990年，1～14頁），「ヒンドゥ・仏教世界」（石井米雄編『講座東南アジア学四　東南アジアの歴史』，東京：弘文堂，1991年，171～188頁），「タイにおける伝統法研究――回顧と展望」（『東南ア

ジア歴史と文化』No. 28, 東京：山川出版社, 1991年, 201～216頁)。

石橋　崇雄

③「The Formation of the Power of Early Ch'ing Emperors.」("Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko" No. 48, 1～15頁, 1990年), 「「礼部成語」(『清文備考』所収) 満洲語索引 (A～H) ――『六部成語』総合索引への一環として――」(東京女学館短期大学紀要13, 48～55頁, 1991年2月), 「「工部成語」(『清文備考』所収) 満洲語索引――『六部成語』総合索引への一環として――」(国士舘大学情報科学センター紀要12, 23～38頁, 1991年3月), ⑥『溥儀 (1912～1924) ――紫禁城の廃帝――」(歴史考証・校定・共訳, 東方書店, 1991年2月, 183頁), ⑦「清朝の誥命について」(東京外大A・A研共同プロジェクト「東アジアの社会変容と国際環境」, 平成元年度第2回「清朝檔案の研究――その展望と課題――」, 1989年12月9日), 「乾隆『六條例』について――清朝八旗制度研究の一環として――」(中国1990年清史国際学術討論会, 1990年8月23日, 長春), ⑧「ヌルハチ」(『世界史写真集』第IV期・第11章―1「中国文化圏の拡大」81, 山川出版社, 1990年), 「康熙帝」(『世界史写真集』第IV期・第11章―1「中国文化圏の拡大」82, 山川出版社, 1990年), 「明末の風雲児――呉三桂」(『週刊朝日百科　世界の歴史』83「17世紀の世界2・人物」, 538～539頁, 朝日新聞社, 1990年7月), 「乾隆帝と夫人たち」(『週刊　朝日百科　世界の歴史』93「18世紀の世界2・人物」, 602頁, 朝日新聞社, 1990年9月), 「清朝皇帝が寵愛した男――和珅」(『週刊　朝日百科　世界の歴史』98「18世紀の世界3・人物」, 636～637頁, 朝日新聞社, 1990年10月), 「満洲語夜話㈠」(『満学情報』1, 19～20頁, 満学研究後援会, 1991年2月)。

梅村　　坦

③"Uyghur Manuscripts preservec in the People's Republic of China" (*Documents et archives provenant de l'Asie Centrale*, pp.173～186, 同朋舎, 1990年), 「ウイグル文家産分割文書の一例――中国歴史博物館所蔵K7716――」(『東アジア古文書の史的研究』(唐代史研究会報告第VII集), 420～446頁, 刀水書房, 1990年9月), 「ウイグル文仏教尊像受領命令文書研究――USp. No. 64などにみえる"čuv"の解釈を兼ねて――」(多魯坤・闕白爾, 森安孝夫と共著, アジア・アフリカ言語文化研究40, 13～34頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1990年9月), 「オアシス都市とバザールの機能について――最近のホタン (Khotan) を中心として――」(清水宏祐編『イスラム都市における街区の実態と民衆組織に関する比較研究』, 57～80頁, 東京外国語大学, 1991年2月)。

海野　一隆

③「正保刊『万国総図』の成立と流布」(有坂隆道編『日本洋学史の研究』X，9～75頁，創元社，1991年1月)，④「東洋地図学史」(科学史研究177，1～14頁，日本科学史学会，1991年3月)，⑧「鮎沢信太郎博士の学問」(『鮎澤信太郎文庫目録』，15～18頁，横浜市立大学図書館，1990年3月)，「中国の思考――天と地と人――」(内田秀雄・高橋正隆編『都賀山〈つがやま市民教養文化講座〉』，119～121頁，守山市野洲郡勤労福祉会館つがやま荘，1990年4月)，「日本図」(『国史大辞典』11巻，201～204頁，別刷図版〈対204～対205頁，計12頁〉，吉川弘文館，1990年9月)，「万国総図」(同，767頁)，"List of Old Globes in Japan" (H. Kawamura, K. Miyajimaと共編，Der Globusfreund: Wissenschaftliche Zeitschrift für Globen-und Instrumentenkunde, 38/39, S. 173～177, Taf. 37～38, Internationale Coronelli-Gesellschaft für Globen-und Instrumentenkunde, Wien, November 1990)。

越智　重明

③「南朝貴族制と王朝交代」(久留米大学比較文化研究所紀要8，39～62頁，久留米大学比較文化研究所，1990年7月)，「愛媛県東部のでこ廻し」(部落解放史・ふくおか60，70～89頁，福岡部落史研究会，1990年12月)，「孝思想の展開と始皇帝」(国立台湾大学歴史学系学報15，39～64頁，国立台湾大学歴史学系，1990年12月)，「The Southern Dynasties Aristocratic System and Dynastic Change」(*Acta Asiatica* 60 Studies in the History of The Six Dynasties，54～77頁，The Tōhō Gakkai，1991年)，「贅壻」(久留米大学比較文化研究所紀要9，41～82頁，久留米大学比較文化研究所，1991年3月)。

岡田　英弘

②『民族の世界史4　中央ユーラシアの世界』(護雅夫・岡田英弘共編，山川出版社，1990年6月，Xii＋576＋34頁)，③「序章　中央ユーラシアの歴史世界)(『民族の世界史4　中央ユーラシアの世界』，1～21頁，山川出版社，1990年6月)，「第3部　モンゴル系民族」(『民族の世界史4　中央ユーラシアの世界』，269～270頁，山川出版社，1990年6月)，「大嘗祭は冬至祭である」(週刊読売49―51，101頁，1990年11月27日)，"The Chakhar shrine of Eshi Khatun." *Aspects of Altaic Civilization III*, Indiana University Uralic and Altaic Series 145, ed. Denis Sinor, Bloomington, Indiana, 1990, pp.176～186. "Dayan Khan in the *Biography of Altan Khan*." (*Altaica Osloensia, Proceeding from the 32nd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Oslo, June 12-*

16, 1989, pp.249～258. Universitetsforlaget, Oslo.), ④「ドナウ河畔のアルタイ学会」(ドナウ通信6, 1～2頁, 在ブダペスト日本人会, 1990年9月),「第33回国際アルタイ学会」(アジア・アフリカ言語文化研究所通信70, 32～38頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1990年11月),「会員通信」(東方学会報59, 42頁, 東方学会, 1990年12月), ⑤「チベットの運命――ダライ・ラマ十四世のノーベル平和賞受賞に寄せて――」(文化会議250, 38～41頁, 日本文化会議, 1990年4月),「入江隆則著『グローバル・ヘレニズムの出現』」(正論218, 301～302頁, 産経新聞社, 1990年10月), ⑦「二十一世紀の中国と日本――激動する世界史の中で新しい日中関係を求める――」(エグゼクティブ・アカデミー, 1990年1月23日, 全文：エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 1～36頁, 1990年4月),「ソ連の民族問題」(エグゼクティブ・アカデミー, 1990年5月22日, 全文：エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 1～43頁, 1990年7月),「中国文明の構造と発展」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「『未開』概念の再検討」研究会, 1990年6月12日, 要旨：アジア・アフリカ言語文化研究所通信70, 39～40頁, 1990年11月), "The Yüan imperial seal in the Manchu hands: The source of the Ch'ing legitimacy." (The 33rd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Budapest, 28 June 1990.),「ユーラシア大陸の歴史と民族――草原の民が「世界史」を創る――」(日本文化会議月例懇談会, 1990年3月16日, 全文：文化会議253, 20～37頁, 1990年7月),「民族の世界史 I」(エグゼクティブ・アカデミー, 1990年9月13日, 全文：エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 1～39頁, 1990年11月),「中国史の常識, 非常識」(古代を学ぶ会, 1990年10月3日),「中央ユーラシア史の可能性」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「アジア遊牧民の歴史と言語」研究会, 1990年10月8日, 要旨：アジア・アフリカ言語文化研究所通信71, 53～58頁, 1991年3月), "Why Japanese use Chinese characters." (SIETAR Japan, 21 November 1990; Summary: *The SIETAR Newsletter*, Winter 1990, pp. 11 & 9),「中国文明における歴史」(日本文化会議東西文化比較研究セミナー「文化としての歴史 歴史のある文明, 歴史のない文明」, 1990年11月30日),「民族の世界史 II」(エグゼクティブ・アカデミー, 1990年12月7日, 全文：エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 1～44頁, 1991年2月),「民族の世界史 III」(エグゼクティブ・アカデミー, 1991年3月6日, 全文：エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 1～39頁, 1991年4月), "China as a successor state to the Mongol Empire." (International Seminar "The Mongol Empire and its Legacy," School of Oriental and African Studies, University of London, 21 March 1991), ⑧「パラボラアンテナ1 モンゴルの日本接近」(大

望256，26～27頁，1990年４月），「内藤湖南ふたたび」（月曜評論1001，４頁，1990年４月２日），「モンゴル帝国の遺産」（月曜評論1002，４頁，1990年４月９日），「パラボラアンテナ２　ゴルバチョフ大統領の意味」（大望257，26～27頁，1990年５月），「パラボラアンテナ３　リトアニア民族の誇り」（大望258，30～31頁，1990年６月），「上垣外憲一　雨森芳洲と新井白石　質問」（文化会議252，12～20頁，1990年６月），「中国の恐るべき実態を抉る」（黄昭堂著『滅亡へ直進する中国』表紙裏，祥伝社，1990年６月），「パラボラアンテナ４　自信を持った台湾」（大望259，26～27頁，1990年７月），「パラボラアンテナ５　ハンガリーの民主化」（大望260，32～33頁，1990年８月），「パラボラアンテナ６　モンゴルの総選挙」（大望261，26～27頁，1990年９月），「パラボラアンテナ７　イラクのクウェイト侵略」（大望262，26～27頁，1990年10月），「パラボラアンテナ８　日中関係と日ソ関係を再考する」（大望263，26～27頁，1990年11月），「パラボラアンテナ９　追いつめられた金日成」（大望264，26～27頁，1990年12月），「「元気」と「養生」」（月刊健康358，１～２頁，1990年12月），「パラボラアンテナ10　「ソ連」から「ス連」へ，ロシアへ」（大望265，26～27頁，1991年１月），「パラボラアンテナ11　ソ連で内戦の危機がせまる」（大望266，26～27頁，1991年２月），「ハイテクで探る日本人のルーツ３　大戦争を収めた卑弥呼のセクシーな魅力」（週刊朝日96―４，132～135頁，1991年２月１日），「パラボラアンテナ12　湾岸戦争より大きな危険が迫っている」（大望267，26～27頁，1991年３月）。

神田　信夫

③「愛新覚羅考」（東方学80，１～15頁，東方学会，1990年７月），「袁崇煥与皇太極的往来書信―特別崇禎二年（天聰三年）間書信」（『袁崇煥学術論文集』，116～126頁，広西人民出版社，1989年12月），「清太宗皇太極和毛文龍的議和」（『清史国際学術討論会議文集』，36～50頁，遼寧人民出版社，1990年），⑦「満学について」（満学研究後援会設立総会，1990年６月24日，東京・アジア文化会館），“A Study of Aisin Gioro”（33rd International Congress of Asian and North African Studies, Toronto, 1990年８月22日），⑧「会報の発刊を祝す」（駿卓ニュース１，１頁，明治大学駿台卓球会，1990年５月），「榎一雄先生を偲ぶ」（東方学80，220～222頁，東方学会，1990年７月），「大学審大学教育部会の中間報告に思う」（明治大学広報297，１頁，明治大学，1990年９月），「第33回ICANAS全体報告」（東方学会報59，２～８頁，東方学会，1990年12月），「満洲写真帖所載の遼西の史跡」（湖南11，13頁，内藤湖南先生顕彰会，1990年12月），「東洋史用語の解説」（現代用語の基礎知識1991，1144～1150頁，自由国民社，1991年１月），「満学について」（満学情報1991年春季号，５～８頁，満学研究後援

会，1991年２月），「序」（『中国東北部における清朝の史跡』，１頁，東洋文庫中央アジア・イスラム研究室，1991年３月）。

草野　　靖

③「両税法以降の主客戸制度」（上）文学部論叢33，34～58頁，熊本大学文学部，1990年10月）。

小松　久男

⑤「アブラル・カリムッリン著『タタール人：エトノスとエトノニム』」（東洋学報72―３・４，122～129頁，1991年３月，東洋文庫），⑥「ソ連中央アジアにおける都市研究の動向」（イスラムの都市性研究報告・研究会報告編19，１～11頁，東京大学東洋文化研究所，1990年８月），⑦「中央アジアの都市の民族問題」（イスラムの都市性研究報告・研究報告編92，１～22頁，1990年10月），⑧「世界のことば㊼ウズベク語」（朝日ジャーナル９月21日号，56頁，1990年９月），「世界のことば㊽カザフ語」（朝日ジャーナル９月28日号，56頁，1990年９月），「カシュガルのアンディジャン区調査報告」（清水宏祐編『イスラム都市における街区の実態と民衆組織に関する比較研究』，45～55頁，東京外国語大学，1991年２月）。

後藤　　明

【平成元年度】①『世界史（高校教科書）（改定版）』（中村英勝他共著，東京書籍，1991年２月，383頁），②「『シリーズ　世界史への問い』全10巻，」（柴田三千雄他共編，岩波書店，1989年10月），⑦「イスラム世界の成立」（NHK高校講座・世界の歴史，1989年５月30日），「７世紀のアラビアの都市メッカ」（重点領域研究「イスラムの都市性」第２回全体集会第２セッション「時間的広がりの中で都市比較はいかに成り立つか――『市民』の概念と宗教運動」，1989年６月17日，要旨：『イスラムの都市性・研究報告』研究会報告編10，７～９頁，1989年９月），「イスラム世界の拡大」（NHK高校講座・世界の歴史，1989年６月27日），「モンゴル帝国」（NHK高校講座・世界の歴史，1989年７月４日），「オスマン帝国の動揺」（NHK高校講座・世界の歴史，1989年11月14日），「西アジア地域研究」（東京外国語大学公開講座・パネルディスカッション，1989年12月２日），「ブラックアフリカ」（NHK高校講座・世界の歴史，1989年12月５日），「イスラーム理解のために」，日立製作所栃木工場講演会，1990年３月８日），⑧「異端なき宗教の“異端”――ハワーリジュ派とシーア派――」（『週刊朝日百科・世界の歴史』22，152～153頁，朝日新聞社，1989年４月），「ムハンマド」（『週刊朝日百科・世界の歴史』33，196～199頁，朝日新聞社，1989年７月），「序章」（『シリーズ世界史への問い１

歴史における自然』，１～15頁，岩波書店，1989年10月)，「シンポジウム・文明と都市」(比較文明５，150～168頁，刀水書房，1989年11月)，「座談会　アラブを知ろう」(『Concourse　コンコース』152，１～12頁，鉄道と未来をつくる会，1990年12月)，「変動する中東Part３　社会・文化編　イスラムの都市性」(『中東協力センターニュース』1990年１月号，48～53頁，中東協力センター)，「『イスラムの都市性』国際会議をおえて」(『月刊　中東研究』340，９～10頁，中東調査会，1990年３月)。

【平成２年度】①『メッカ――イスラムの都市社会』(中央公論社［中公新書］，1991年３月，197頁)，②『シリーズ　世界史への問い』全10巻，(柴田三千雄他共編，岩波書店，1989年10月～)，③「ムハンマドと初期イスラーム世界の権力」(『シリーズ世界史への問い７　権威と権力』，15～40頁，岩波書店，1990年10月)，④「ジャーヒリーヤからイスラームへ――第５回国際コロキウム」(オリエント33－２，日本オリエント学会，130～134頁，1991年３月)，⑤「佐藤次高著『マムルーク』」(産経新聞，1991年３月９日夕刊)，⑦「初期イスラーム時代のパトロンとクライエント関係」(日本中東学会第６回年次大会公開講演，1990年４月12日)，「イスラム世界の成立」(NHK高校講座・歴史でみる世界［前年度分再放送］，1990年５月28日)，「はじめに」(重点領域研究「イスラムの都市性」M班，S班，U班合同研究会，1990年６月２日，要旨：『イスラムの都市性・研究報告・研究報告編』27，１～４頁，1991年３月)，「イスラム世界の拡大」(NHK高校講座・歴史でみる世界，1990年６月25日)，「モンゴル帝国」(NHK高校講座・歴史でみる世界，1990年７月２日)，“Pedigrees and the Tribal Society in Jahiliyya: a Reconsideration to the Tribal Society” (Fifth International Colloquim on: from Jahiliyya to Islam: Aspects of Social, Cultural, and Religious History in the Period of Transition, 1990年７月２日，Hebrew University of Jerusalem, Givat Ram)，「イスラームの心――戦争と平和と」(日本工業クラブ月例講演会，1990年９月11日)，「シルクロードとイスラム文化」(福岡：アジア都市文化フォーラム'90パート３「イスラムの都市性」，1990年９月25日)，「オスマン帝国の動揺」(NHK高校講座・歴史でみる世界，1990年11月12日)，“A Challenge to the Notion of “Islamic Cities”” (The Second International Conference on Urbanism in Islam, 1990年11月29日)，「ブラックアフリカ」(NHK高校講座・歴史でみる世界，1990年12月３日)，「都市文明イスラーム」(新しい文明を語る会月例講演会，1990年12月５日)，「コーランを読む」(NHK教育テレビさわやかクラブ，1991年１月７日，14日，21日，28日，要旨：「コーランを読む」(『さわやかクラブ』(シニア時代のテレビテキスト) 1991年１月号，48～57頁，日本放送出版協会))，「イスラームを知る」(中東調査会連続セミナー「現代中東を知る－ヤルタからマルタへ」，1991

年１月24日)，「イスラームは都市にはじまる」(第５回「大学と科学」公開シンポジウム「都市文明イスラーム」，1991年２月11日)，「中東――その歴史と信仰」(NHK現代ジャーナル，「イスラム社会」1991年３月５日，「アラブの大義」３月６日，「アラブと西欧列強」３月７日)，「イスラムの社会」(特別区職員研修所「社会・文化講座」，1991年３月26日)，⑧「アラブの黄金時代」(AERA39，40～42頁，1990年10月)，「アラブは西欧中心史観をゆるがす」(板垣雄三編『中東パースペクティブ』，29～55頁，第三書館，1990年12月)，「『イスラムの都市性』プロジェクト私の総括」(『マディーニーヤ』37，１～９頁，文部省科学研究費重点領域研究「イスラムの都市性」事務局，1991年１月：清水宏祐編『イスラム都市における街区の実態と民衆組織に関する比較研究』，81～96頁，東京外国語大学，1991年２月)，「座談会：湾岸危機・中東と日本」(板垣雄三編『中東湾岸危機と日本』，９～100頁，第三書館，1991年２月)，「古代漂流79　都市を生んだ文明」(朝日新聞・大阪版，1991年２月15日夕刊)，「古代漂流80　神々の世界の終焉」(朝日新聞・大阪版，1991年２月22日夕刊)，「古代漂流81　「神への服従」興る」(朝日新聞・大阪版，1991年３月１日夕刊)，「古代漂流82　「自由都市」メッカ」(朝日新聞・大阪版，1991年３月８日夕刊)，「古代漂流83　ギリシャ文化の継承」(朝日新聞・大阪版，1991年３月15日夕刊)，「古代漂流84　イスラムの都市性」(朝日新聞・大阪版，1991年３月22日夕刊)。

後藤　均平

⑧「解説：植村清二『神武天皇――日本の建国』」(中公文庫，1990年９月，206～217頁)。

佐藤　次高

①『マムルーク―異教の世界からきたイスラムの支配者たち』(東京大学出版会，1991年３月，Ⅻ＋１　199＋11頁)，④「イスラムの都市性にかんする国際会議」(東方学80，1990年７月，157～171頁)，「韓国中東学会年次大会に出席して」(日本中東学会ニューズレター29，1991年２月，２～３頁)，⑥「ハキーム著『イスラーム都市――アラブのまちづくりの原理――』」(監訳，小杉泰らと共訳，第三書館，1990年12月，235頁)，⑦「メソポタミアのイスラム文明」(渋谷区千駄ヶ谷社会教育館・歴史講座，1990年６月14日)，「地中海世界と宗教――イスラム――」(地中海学会シンポジューム，上智大学，1990年６月３日：要旨，地中海学会月報131，1990年７月，４～６頁)，「海外調査報告「ジャカルタ・寧夏・チュニス」」(第27回野尻湖クリルタイ，1990年７月16日)，“Present Situation of the Islamic and the Middle Eastern Studies in Japan”(韓国中東学会年次大会報告，韓国外国語

大学校，ソウル，1990年12月12日)，「中東——その歴史・文化」(中東調査会連続セミナー「現代中東を知る」，虎の門パレス，1991年1月31日)，「イスラムの都市社会と砂糖」(「イスラムの都市性」E班研究会，沖縄セントラル・ホテル，1991年2月4日)，「町の顔役」(第5回大学と科学公開シンポジューム「都市文明イスラームの世界」，有楽町朝日ホール，1991年2月12日)，「スルタン・商人・奴隷——他者活用のしくみ——」(横浜朝日カルチャー・センター「アラブを知る」，横浜ルミネ，1991年2月26日)，⑧「奴隷もまた人間——イスラーム社会の多彩な顔——」(週刊朝日百科『世界の歴史』89，1990年8月，D-559頁)，「ベラム装アラビア語文書」(『第64回東洋文庫展示会』，1990年11月，1～2頁)，「嶋田先生と日本のイスラム学」(東方学81，1991年3月，223～224頁)。

酒井　憲二

②『歌舞伎評判記集成　第二期　第九巻』(共編，岩波書店，1990年12月，622頁)，③「『甲陽軍鑑』の語彙一斑」(語文77，1～6頁，1990年6月)。

志茂　碩敏

②『東洋文庫所蔵ペルシア語文献目録』(岩見隆，関喜房共編，東洋文庫中央アジア・イスラム研究委員会，1991年3月，2＋470＋20頁)。

滋賀　秀三

⑧「中国法制史と私——老兵の告白」(中国——社会と文化5，338～360頁，東大中国学会，1990年6月)，「内田智雄先生の逝去を悼む」(法制史研究40(1990)，403～405頁，法制史学会，1991年3月)。

関野　　雄

③「臨淄封泥考」(東洋学報72—1・2，53～85頁，東洋文庫，1990年12月)，⑦「前方後円墳の起源を探る」(日本中国考古学会第一回総会・大会，1990年9月2日，要旨：特別講演資料　1～4頁)。

武田　幸男

③「新羅六部とその展開」(『民族史の展開とその文化』上巻，81～125頁，創作と批評社，1990年9月)，「高句麗広開土王碑と目黒区所蔵拓本」(『高句麗広開土王碑拓本写真集』，26～37頁，目黒区守屋教育会館郷土資料室，1990年11月)，「朝鮮諸国の古代国家形成」(『伽耶はなぜほろんだか』，21～42頁，大和書房，1991年2月)，「新羅六部とその展開」(朝鮮史研究会論文集28，171～206頁，1991年3

月)，⑦「碑文から見た4，5世紀の高句麗」(シンポジウム古代の東アジアと日本，1990年12月16日，要旨：シンポジウム資料収集，19～25頁)。

C. A. ダニエルス

③「雲南省西雙版納傣族の製糖技術と森林保護——現地調査に見るその歴史——」(就実女子大学史学論集5，233～302頁，1990年12月)，「台湾の経済成長を担った意外な人々（中国の社会・風俗—10—)」(千慮一得24，1～7頁，1990年7月)。

千葉　　昊

③「南宋楊皇后」(桐朋学園女子部研究紀要5，2～18頁，桐朋学園，1990年7月)。

竺沙　雅章

②「敦煌吐蕃期の僧官制度——特に教授について」(布目潮渢博士古稀記念論集『東アジアの法と社会』，305～328頁，汲古書院，1990年5月)，「白蓮宗について」(新野直吉・諸戸立雄両教授退官記念歴史論集『中国史と西洋世界の展開』，23～46頁，みしま書房，1991年2月)，⑦「石に刻まれた中国史」(京都大学文学部博物館公開講座「中国の石刻史料」，1990年4月28日)，「敦煌吐蕃期の僧官制度」(第二届敦煌学国際研討会，1990年7月10日，台北)，「蘇東坡」(1990年8月20日，仏教大学四条センター)，「宋元蔵経の系譜」(第40回東方学会総会，1990年11月4日，京都，要旨：東方学81，190頁，1991年1月)，「陳垣と桑原隲蔵」(紀念陳垣教授生誕百十周年国際学術討論会，1990年12月12日，広東省江門市)。

杤尾　　武

①『玉造小町子壮衰書の研究』(全2冊，臨川書店，1991年3月，研究・注釈・索引篇587頁，影印篇723頁)。

鳥海　　靖

②『国史大辞典　第11巻』(共編，吉川弘文館，1990年9月，1144頁)，③「明治政府の近代化構想」(『近代化に伴う国土環境の変化』，25～38頁，福武学術文化振興財団，1990年10月)，「福沢諭吉の地方自治論——「分権論」と「通俗民権論」を中心に」(地方自治の窓33，12～18頁，地方自治協会，1990年12月)，「藩閥対民党——第一回総選挙～第四回議会」(内田健三ほか編『日本議会史録』第1巻，61～140頁，第一法規出版，1991年2月)，⑦「日本近代史の理解について」(アメ

リカ社会科教科書編集者日本研修旅行研究会議，1990年10月23日，東京)，⑧「対談書評，司馬遼太郎『明治という国家』——歴史の語り部として——」(アスティオン16，208～218頁，サントリー文化財団・TBSブリタニカ，1990年4月)，「〈監修・解説〉『NHKカセットブック・肉声で聞く昭和の証言——政治家編』1～7」(日本放送出版協会・NHKサービスセンター，1990年4月～7月)，「人物研究と歴史の内在的理解」(学図教科研究社会124，1～5頁，学校図書，1990年11月)，「インドの街角から」(教育じほう517，4～7頁，東京都立教育研究所・東京新教育研究会，1991年2月)。

永田　雄三

③「オスマン朝法制資料のコンピュータ分析のための予備的考察」(『日本オリエント学会創立35周年記念オリエント学論集』，397～414頁，刀水書房，1991年7月)，「パン・トルコ主義の基盤」(『世界史への問い』第8巻，47～73頁，1991年)，「オスマン帝国における国家的土地所有の衰退——チフトリキ型大土地所有の発展」(歴史学研究618，37～41頁，1991年4月)，⑧「EC加盟とイスラムの間で揺れるトルコ」(世界週報1991年4月23日号，16～19頁)。

林　　望

①『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総目録』(ピーター・F・コーニツキと共著，英国ケンブリッジ大学出版会，1991年2月，520頁)，『イギリスはおいしい』(平凡社，1991年3月，252頁)，③「古い器と新しい力と——『物くさ太郎』試論——」(東横国文学23，110～128頁，東横学園女子短期大学，110～128頁，1991年3月)，⑦「余は如何にしてMAC教徒となりしか」(情報処理語学文学研究会例会，於共立女子大学，1990年11月)，「書誌学の方法について」(成田山仏教研究所，1990年12月)，⑧「一人の男と彼の犬」(「イギリスは愉快だ」シリーズ，ジャパン・アベニュー2，1990年6月)，「庭冴ゆる月なりけりな」(ジャパン・アベニュー3，1990年8月)，「海の上の午餐」(ジャパン・アベニュー4，1990年10月)，「勇気とは何か」(ジャパン・アベニュー5，1990年12月)，「ささいなる文化」(ジャパン・アベニュー6，1991年2月)，「じつにくだらない…」(『森武之助先生をしのんで』，1991年1月)。

原　　實

③「中世ヴェーダーンタ派哲學者の伝えるPāśupata説」(前田専学編『インド中世思想研究』，春秋社，1991，pp. 237～264)，⑤「Ludo Rocher ; The Purāṇas」(東洋学報72—1・2，pp. 01～03)，P. Schreiner & R. Söhnen : Sanskrit Indices

and Text of the Brahmapurāṇa（東洋学報72—1・2，pp. 04～05），⑦"Progress of Sanskrit Studies in Japan"（於中国社会科学院（亜州太平洋研究所）北京，平成2年10月26日），"India, China and Japan, Transmission of Literary Motifs"（於陝西省社会科学院（西安），平成2年11月5日）。

藤枝　晃

【平成元年度】④「ユーラシア学会のことなど」（『人の人——山田信夫先生追悼文集』，374～378頁，山川出版社，1989年4月），「ふたつの学会」（川喜田二郎監修『今西錦司，その人と思想』，478～480頁，東京ぺりかん社，1989年10月），「大谷コレクションの現状」（『龍谷大学創立350周年記念大谷探検隊将来西域文化資料選』，109～119頁，龍谷大学図書館，1989年11月），⑦「聖徳太子のはなし」（大高三火会例会卓話，1989年4月18日，要旨；大高同窓会報55，6頁，1989年6月），「観音経二題——敦煌・トルファンの古写本から」（第201回観音講座，1989年9月24日，（速記）観音だより38，22～34頁，京都妙法院門跡，1990年2月），⑧「人間社会学へのめざめ」（毎日新聞1989年5月1日夕刊，〝若い日のわたし〟），「図版解説4篇」（『龍村平蔵の世界」展図録，朝日新聞社，1989年10月12日）。

【平成2年度】③「敦煌遺書之分期」（中国敦煌吐魯番学会編『敦煌吐魯番学研究論文集』，12～15頁，図1～12，上海漢語大詞典出版社，1990年6月第1版），「（出口常順師出品）トゥルファン出土写本解説」（現代書道二十人展第35回記念『トゥルファン古写本展』図録，1～16頁，朝日新聞社，1991年1月），「勝鬘経義疏（解説）」（家永三郎，藤枝晃，早島鏡正，築島裕『聖徳太子』，原典日本仏教の思想1，484～540頁，岩波書店，1991年3月），⑦"Uighur King of Ganzhou"（Central Asia at Berkeley, 8th meeting, University of California, Berkeley, 1990年4月29日），「敦煌壁画中所見的甘州回鶻王族」（敦煌学国際学術討論会，敦煌研究院，1990年10月9日），「西域研究の現状」（京都新聞西域仏蹟調査団帰国報告会，於京都新聞社文化ホール，1991年3月8日），⑧「序」（上山大峻著『敦煌仏教の研究』，i～ix頁，京都法蔵館，1990年3月31日）。

古屋　昭弘

⑥「姜信沆『訓世評話』について」（中国語学研究開篇7，65～86頁，好文出版，1990年6月），⑧「中国語」（外国語の手引，8～9頁，早稲田大学語学教育研究所，1991年3月），「中国語学関係項目執筆」（『日本語学辞典』，約40項目，桜楓社，1990年10月）。

本庄比佐子

⑥「閩西ソビエト区の郵政について」(張兆声「閩西紅色郵政史」『党史研究与教学』1989年4期，原朝子と共訳，『近代中国研究彙報』13，79～91頁，1991年3月)。

矢澤　利彦

①『西洋人の見た16～18世紀の中国女性』(東方書店，1990年12月，194頁)，③『Christianisme et Religions Populaires en Chine』("Bouddhismes et Sociétés Asiatiques". L'Harmattan, avril 1990. pp. 189～203)。

柳田　征司

③「近代語の進行態・既然態表現」(近代語研究8，3～27頁，1990年9月)。

山内　弘一

①武田幸男編『アジア論IV，朝鮮の歴史』(朝鮮王朝部分執筆協力)，(89～110頁，日本放送協会，1990年4月)，②「子どものしつけと女大学—朝鮮の儒教教育—」(シリーズ『世界史への問い』第5巻，規範と統合，17～44頁，岩波書店，1990年6月)，③「李朝儒教社会の形成——夫一婦制の定着過程をめぐって—」(ソフィア39-2，239～254頁，1990年6月)，「李震相の心即理説と嶺南学派」(『碧史李佑成教授定年退職記念論叢，民族史の展開とその文化』上巻，1047～1077頁，創作と批評社，1990年9月)，「北宋時代の太廟」(研究ノート)(上智史学35，91～119頁，1990年11月)，⑧「李朝時代の結婚——儒教的伝統と習俗——」(週刊朝日百科・世界の歴史72，466～470頁，朝日新聞社，1990年4月)。

山崎　元一

③「バラモンとヴァルナ制度——インド社会史の一側面——」(古代文化42，1～12頁，古代学協会，1990年6月)，「パーリ語文献によるインド古代史研究」(『水野弘元博士米寿記念，パーリ文化学の世界』，361～378頁，春秋社，1990年6月)，「古代インドの武士階級クシャトリヤについて」(国学院雑誌91—11，1～24頁，国学院大学，1990年11月)，「中世身分制度としてのカースト制度の展開」(前田専学編『インド中世思想研究』，47～63頁，春秋社，1991年3月)，「The Legend of the Foundation of Khotan」(Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, No. 48, 55～80頁，1991年3月)，⑤「白井駿著『古代インドの刑事法制』」(国学院法学28—4，205～209頁，国学院大学，1991年3月)，⑦「クシャトリヤ＝ヴァルナについて」(史学会大会，東洋史部会，1990年11月11日，要旨：史学雑誌99—12，111頁，1990年12月)。

山根　幸夫

③「関于阿波国文庫所蔵『大明実録』」（呉廷璆・馮爾康等編『鄭天挺紀念論文集』，495～500頁，中華書局，1990年３月），「明代史研究会の歩み」（『山根幸夫教授退休記念東洋史論叢』下巻，1433～1456頁，汲古書院，1990年３月），「戊戌変法与日本――論康有為対“明治維新”的理解」（国外中国近代史研究11，241～268頁，中国社会科学出版社，1988年６月），「明代福建的丁料和綱銀」（中国社会経済史研究1991―１，23～27頁，中国社会経済史研究編輯部，1991年１月），「明治期日本の対中国貿易の一考察」（社会科学討究36―２，45～70頁，周啓乾と共同執筆，早稲田大学社会科学研究所，1990年12月），⑤「評『湖州府城鎮経済史料類纂』」（浙江学刊1990―４，53～55頁，浙江省社会科学院，1990年７月），「張正明・薛慧林編『明清晋商資料選編』」（東洋学報72―１・２，107～111頁，東洋文庫，1990年12月），「劉徳華・劉詠聡編『香港地区明清史研究期刊論文索引』」（東洋学報72―１・２，111～116頁，東洋文庫，1990年12月），「楊一凡著『明大誥研究』」（東洋学報72―３・４，102～108頁，東洋文庫，1991年３月），「中国社会科学院歴史研究所・徽州文契整理組編『明清徽州社会経済資料叢編』第２輯」（東洋学報72―３・４，109～113頁，東洋文庫，1991年３月），⑦「日中戦争について」（明治大学東洋史同好会，1990年５月10日，明治大学和泉校舎），⑧「私の推薦する本――日中戦争を軸として」（東京女子大学読史会編『歴史の学び方』，39～52頁，編者，1990年３月），「洪煥椿教授を偲ぶ」（明代史研究18，１～６頁，明代史研究会，1990年３月），「王子北教会との出会い」（『日本基督教団王子北教会30周年記念文集』，75～78頁，王子北教会，1990年10月），「自編年譜」（『山根幸夫教授退休記念明代史論叢』上巻，３～９頁，汲古書院，1990年３月），「1989年明代史論文目録」（明代史研究18，75～77頁，明代史研究会，1990年３月），「1989年明清史論文要目」（明代史研究18，78～79頁，明代史研究会，1990年３月），「編集後記」（汲古17，75頁，汲古書院，1990年６月），「編集後記」（汲古18，57頁，1990年12月）。

和田　博徳

③「歴史上から見た中国文化の特色」（フォーラム人文１，03～09頁，創価大学人文学会，1990年７月），「人文学（哲学・史学）についての管見」（創価大学人文論集３，01～02頁，創価大学人文学会，1991年３月），⑦「明代の官俸と柴薪皂隷銀――中国史上最低の俸給と貨幣経済――」（創価大学アジア研究所定例研究会にて研究発表，1990年７月３日）。

渡辺　紘良

⑤「日清戦争従軍兵士の日記」(獨協医科大学教養医学科紀要13，61～86頁，獨協医科大学教養医学科，1990年12月)，⑧「津田左右吉のこと」(Library Bulletin14―1，1～2頁，獨協医科大学図書館，1991年1月)。

財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

（平成３年６月１日現在）

研究員名	主たる研究課題
荒　松　雄	南アジア史における民族・宗教と国家
池　田　温	中国古代・中世史，前近代東亜文化交流史
池　端　雪　浦	フィリピン史
石　井　米　雄	タイ史・三印法典の研究
石　塚　晴　通	日本語の歴史的研究，古代漢字文献学
石　橋　崇　雄	清朝八旗制・内務府・満文史料
市　古　宙　三	太平天国及び中国共産党の研究
宇都木　章	春秋時代政治史
梅　村　坦	ウイグル民族誌，内陸アジア史
海　野　一　隆	東洋地理学史の研究
小　名　康　之	インド・ムガール朝史の研究
越　智　重　明	漢魏晋南北朝史
岡　田　英　弘	北アジア史
風　間　喜代三	印欧語の比較言語学的研究
片　山　章　雄	中央アジア古代史の研究
亀　井　孝	日本語の歴史的研究
川　崎　信　定	チベット仏教の展開
神　田　信　夫	清朝興起史
菊　池　英　夫	唐宋時代の行政および法制（特に軍制）
北　村　甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草　野　靖	宋代の手形紙幣と専売制
小　松　久　男	中央アジア近代史
河　野　六　郎	中期朝鮮語の研究
後　藤　明	イスラム社会と政治
後　藤　均　平	ベトナム・中国関係史及び中国古代史の研究
佐　伯　富	中国山西商人の研究
佐　竹　昭　広	中世日本文学の史的研究
佐　藤　次　高	西アジア・イスラム史
酒　井　憲　二	日本語の史的研究
志　茂　碩　敏	13・４世紀モンゴル政権の中枢・中核について
斯　波　義　信	中国社会経済史
滋　賀　秀　三	中国法制史の通史的研究
蔀　勇　造	南アラビア古代史の研究
清　水　宏　祐	セルジューク朝時代のイラン

研究員名	主たる研究課題
末松保和	柳成龍の伝説
杉山正明	モンゴル帝国史の研究
鈴木立子	元朝における社会経済史
関野雄	中国考古学の研究
田中時彦	日本の政治的近代化の研究
田中正俊	中国近代社会経済史
クリスチャン A・ダニエルス	清代社会経済史，中国技術史
立川武蔵	チベット密教教理の研究
武田幸男	朝鮮古代・近世史の研究
千葉奨	宋代の外戚
竺沙雅章	中国宗教社会史
鶴見尚弘	明・清時代社会経済史の研究
土肥義和	西域出土漢文文書の研究
枅尾武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
鳥海靖	日本近現代史，とくに明治立憲制の形成発展の研究
中嶋敏	宋代史
永田雄三	オスマン帝国社会経済史
花田宇秋	正統カリフ・ウマイヤ朝史研究
八尾師誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命
林望	近世印刷文化の史的研究
原實	インド古代文学の研究
福田洋一	仏教論理学研究
藤枝晃	敦煌・トルファン資料の研究
古屋昭弘	中国語の音韻史的研究
星実千代	現代チベット口語の研究
本庄比佐子	1920～30年代中国政治史
本田實信	フラグ・ウルス国政史
松濤誠達	インド古代神話学
松村潤	東北アジア民族史
松本明	中国隋唐政治制度史
三浦徹	イスラム都市社会史の研究
三根谷徹	漢字音の研究
御牧克己	チベット宗教書の研究
護雅夫	トルコ学・トルコ民族史
森岡康	李朝中期の政治及び社会史の研究

研究員名	主たる研究課題
矢澤利彦	西洋人の見た中国事情
柳田征司	日本語の歴史的研究
柳田節子	宋代社会経済史研究
山内弘一	李朝史，朝鮮儒教
山口瑞鳳	チベット史，チベット語文法，チベット仏教
山口謠司	六朝義疏学における音韻及び訓詁学的研究
山崎元一	インド古代史
山根幸夫	明清社会経済史，近代中日関係史
山本達郎	ベトナム・中国関係史の研究，敦煌発見の籍帳類の研究
和田博徳	明清時代社会経済史の研究
渡辺宏	中近世東西交渉史の研究
渡辺紘良	宋代社会史の研究

III 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理 事 会

第277回 開催日 平成2年6月5日（火曜日）
出席者 北村 甫，有光次郎，市古宙三，河野六郎，田中正俊
林 健太郎，山本達郎
委任状 岩崎寛彌，中村俊男，護 雅夫

第278回 開催日 平成2年6月5日（火曜日）
出席者 北村 甫，有光次郎，市古宙三，河野六郎，田中正俊
林 健太郎，山本達郎
委任状 岩崎寛彌，中村俊男，護 雅夫

第279回 開催日 平成2年12月4日（火曜日）
出席者 北村 甫，市古宙三，岩崎寛彌，河野六郎，田中正俊
林 健太郎，山本達郎
委任状 中村俊男，護 雅夫

評 議 員 会

第128回 開催日 平成2年6月5日（火曜日）
出席者 岡野 澄，神田信夫，亀井 孝，関野 雄，中嶋 敏
前田充明
委任状 有馬朗人，石川忠雄，田部文一郎，中田乙一，西島安則
西原春夫，長谷川周重，日比野丈夫

ii 東洋学連絡委員会の開催

前 期 開催日 平成2年5月22日（火曜日）

出席者　北村　甫（委員長代行），市古宙三，尾崎　康，竺沙雅章
中嶋　敏，福井康順，本田實信

議　題　1．平成元年度財団法人東洋文庫事業報告について
2．平成２年度財団法人東洋文庫事業計画について
3．その他

後　期　開催日　平成２年11月20日（火曜日）

出席者　北村　甫（委員長），市古宙三，入矢義高，江上波夫
尾崎　康，佐藤　長，竺沙雅章，中嶋　敏，西田龍雄

議　題　1．平成２年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2．平成３年度財団法人東洋文庫事業計画案について
3．その他

2. 人 事 報 告

i 役員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
2.4.1.	理事長代行	河野六郎	退任	
〃	理事長	北村甫	就任	
2.6.5.	理事	斯波義信	〃	
2.11.5.	評議員	西原春夫	退任	
〃	〃	小山宙丸	就任	

ii 委員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
2.6.1.	東洋学連絡委員会委員	斯波義信	委嘱	
〃	〃	西田龍雄	〃	
3.1.21.	〃	福井康順	逝去	

iii 職員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
2.4.1.	研究部長	護雅夫	退任	
〃	図書部長	田中正俊	〃	
〃	研究部長	佐藤次高	就任	
〃	研究員(兼任)	蔀勇造	委嘱	
〃	〃	三浦徹	〃	
〃	〃	山口謠司	〃	
〃	研究員(奨励)	久保田宏次	就任	
〃	〃	兼田信一郎	〃	

2.4.23.	参事	矢野雅子	就職	
2.7.27.	〃	〃	退職	
2.9.1.	名誉研究員	E.O.ライシャワー	逝去	
2.9.29.	研究員(兼任)	河鰭源治	〃	
2.10.1.	会計係長	金子祐子	就任	
〃	参事	橘伸子	就職	
2.11.1.	研究員(兼任)	石井米雄	委嘱	
〃	〃	小名康之	〃	
3.3.31.	研究員(奨励)	吉岡司郎	退任	
〃	〃	兼田信一郎	〃	

iv 受　章

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2.4.29.	理事	林健太郎	受章	勲一等瑞宝章
2.5.1.	評議員	有馬朗人	授章	米国ウェザリル・メダル
2.11.3.	〃	日比野丈夫	綬章	勲三等旭日中綬章

v 表　彰

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2.11.19.	総務課長	光田憲雄	表彰	勤続20年

Ⅳ 役職員名簿

平成３年３月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は，以下のとおりである。

1. 役　員

役職名	氏名	現職
理事長	北村　甫	麗澤大学教授 東京外国語大学名誉教授
理事	有光次郎	日本芸術院会員
〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	岩崎寛彌	株式会社三菱銀行取締役 東山農事株式会社代表取締役社長
〃	河野六郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	斯波義信	東京大学東洋文化研究所教授
〃	田中正俊	神田外語大学教授 東京大学名誉教授
〃	中村俊男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林　健太郎	東京大学名誉教授
〃	護　雅夫	日本大学教授 東京大学名誉教授
〃	山本達郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監事	池原正道	日本コムシス株式会社監査役
〃	白石元良	三菱金曜会事務局長

役職名	氏名	現職
評議員	有馬朗人	東京大学長
〃	石川忠雄	慶應義塾長
〃	岡野澄	財団法人井上科学振興財団常務理事 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター運営委員
〃	亀井孝	一橋大学名誉教授
〃	神田信夫	明治大学教授
〃	小山宙丸	早稲田大学総長
〃	関野雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田部文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	中嶋敏	東京教育大学名誉教授
〃	中田乙一	三菱地所株式会社相談役
〃	西島安則	京都大学長
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社相談役
〃	日比野丈夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	前田充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター顧問

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	北村　甫	財団法人東洋文庫理事長，麗澤大学教授
委員	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	入矢義高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
〃	江上波夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾崎　康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	佐藤　長	佛教大学教授 京都大学名誉教授
〃	斯波義信	東京大学東洋文化研究所教授
〃	竺沙雅章	京都大学教授
〃	長尾雅人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中嶋　敏	東京教育大学名誉教授
〃	西田龍雄	京都大学教授
〃	日比野丈夫	大手前女子大学長，京都大学名誉教授
〃	本田實信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
〃	山本達郎	日本学士院会員，東京大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
A. フォン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
J. ジエルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職　員

（平成３年３月31日現在）

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	佐藤次高	東京大学教授
	研究員（兼任）	荒松雄	恵泉女学園大学教授
	〃	池田温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	池端雪浦	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	石井米雄	上智大学教授
	〃	石塚晴通	北海道大学教授
	〃	石橋崇雄	国士舘大学助教授
	〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
	〃	宇都木章	青山学院大学教授
	〃	梅村坦	立正大学教授
	〃	海野一隆	大阪大学名誉教授
	〃	小名康之	青山学院大学教授
	〃	越智重明	久留米大学教授
	〃	岡田英弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	亀井孝	一橋大学名誉教授
	〃	川崎信定	筑波大学教授
	〃	神田信夫	明治大学教授
	〃	菊池英夫	中央大学教授
	〃	北村甫	麗澤大学教授
	〃	草野靖	熊本大学教授
	〃	小松久男	東海大学助教授
	〃	河野六郎	東京教育大学名誉教授
	〃	後藤明	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	後藤均平	立教大学教授
	〃	佐伯冨	京都大学名誉教授
	〃	佐竹昭広	成城大学教授
	〃	酒井憲二	図書館情報大学教授
	〃	志茂碩敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	斯波義信	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	滋賀秀三	東京大学名誉教授
	〃	蔀勇造	東京工業大学助教授
	〃	清水宏祐	東京外国語大学助教授

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員（兼任）	末松保和	学習院大学名誉教授
	〃	鈴木立子	愛知大学助教授
	〃	関野　雄	東京大学名誉教授
	〃	田中時彦	東海大学教授
	〃	田中正俊	神田外語大学教授
	〃	クリスチャン A・ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	〃	武田幸男	東京大学教授
	〃	千葉　炅	桐朋学園大学講師
	〃	竺沙雅章	京都大学教授
	〃	鶴見尚弘	横浜国立大学教授
	〃	杤尾　武	成城大学教授
	〃	土肥義和	國学院大学教授
	〃	鳥海　靖	東京大学教授
	〃	中嶋　敏	東京教育大学名誉教授
	〃	永田雄三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	八尾師　誠	東京外国語大学助教授
	〃	花田宇秋	明治学院大学教授
	〃	林　　望	東横学園女子短期大学助教授
	〃	原　　實	東京大学教授
	〃	藤枝　晃	京都大学名誉教授
	〃	古屋昭弘	早稲田大学教授
	〃	本田實信	名古屋商科大学教授
	〃	松濤誠達	大正大学教授
	〃	松村　潤	日本大学教授
	〃	三浦　徹	お茶の水女子大学専任講師
	〃	三根谷　徹	東京大学名誉教授
	〃	護　雅夫	日本大学教授
	〃	森岡　康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	矢澤利彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳田征司	愛媛大学教授
	〃	山内弘一	上智大学助教授
	〃	山口瑞鳳	東京大学名誉教授
	〃	山口謠司	ケンブリッジ大学助手
	〃	山崎元一	國学院大学教授

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
	〃	山　根　幸　夫	東京女子大学名誉教授
	〃	山　本　達　郎	東京大学名誉教授
	〃	和　田　博　徳	創価大学教授
	〃	渡　辺　　宏	東洋大学アジア・アフリカ研究所 研究員
	〃	渡　辺　紘　良	獨協医科大学教授
	研究員（専任）	松　本　　明	

部　名	職　　名	氏　　名
図書部	部　　長	渡　辺　兼　庸
	東洋文庫長	渡　辺　兼　庸*
	主　　査	小　山　　勲*，竹之内　信　子*
	副　主　査	池　田　直　人*，志　茂　碩　敏*，秩　父　良　子* 広　瀬　洋　子*
	事務主任	小　林　輝　男*
	司　　書	西　薗　一　男，桜　井　　徹
総務部	部　　長	東　　陽太郎
	課　　長	光　田　憲　雄
	会計係長	金　子　祐　子
	参　　事	中　沢　元　幸，橘　　伸　子，広　木　節　巳 吉　田　男佐武

（※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員）

5. 臨時職員

部名	氏名
研究部	石川重雄，石川美恵，市田真理，片山章雄 加藤勝久，現銀谷史明，近藤亮，遠山日出也 沼裕子，原朝子，帆刈浩之，星野多佳子 丸山越子，吉田健翁
図書部	石川むつみ，石黒ひさ子，井上治，岩永正子 岩見隆，大島誠二，鹿島幸子，金沢康雄 崎山留未栄，清水一枝，関喜房，高木雅弘 高田幸男，永井美智代，荷見守義，浜尾彰久 藤原美穂，堀本尚彦，前迫勝明，山口乾 山崎淑子，ヤマンラール水野美奈子，横溝美緒 吉田雅子，吉原伸行，吉安昌夫，渡辺修
総務部	中太葉子

財団法人東洋文庫東洋学連絡委員会委員略年表

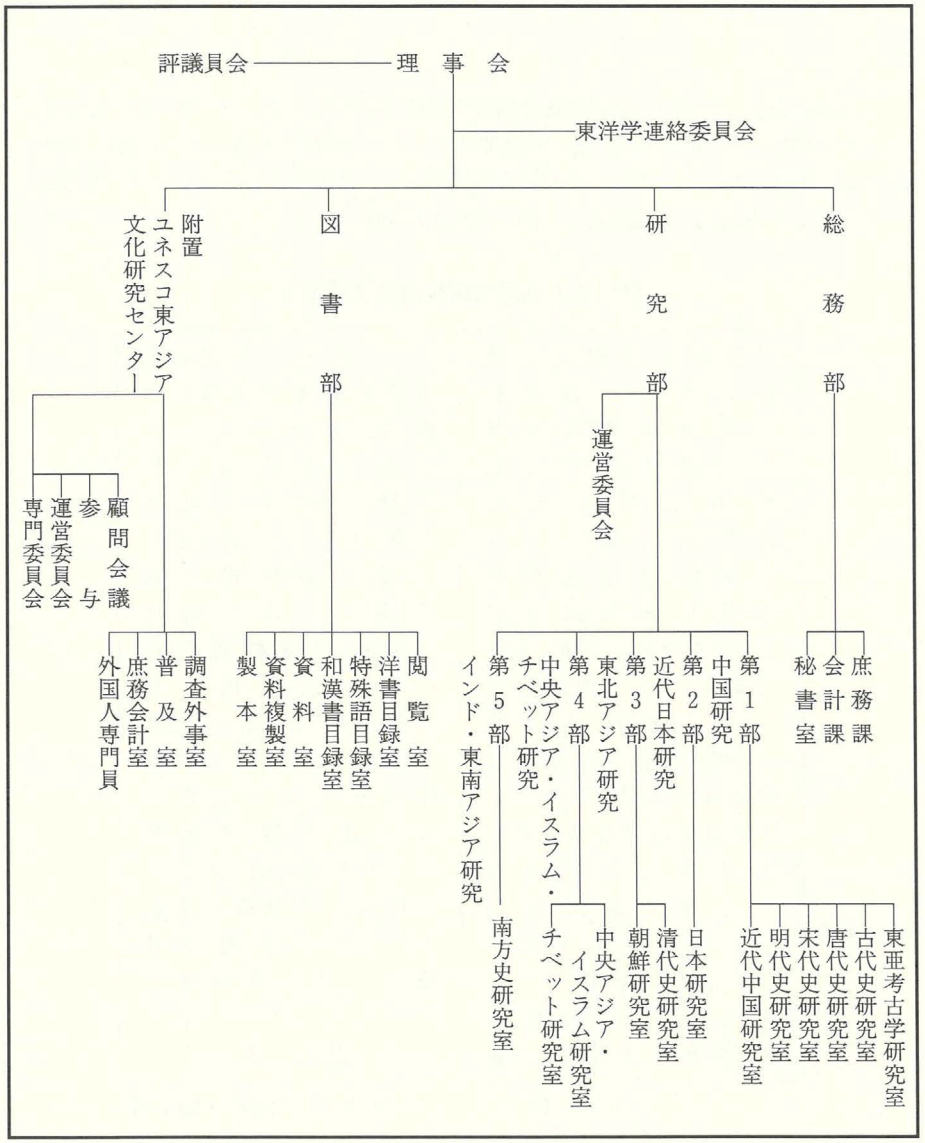
（氏名欄※印現任委員）

氏　名	委嘱年次	委　嘱　時　現　職	備　　考
岩井　大慧	S.33年４月１日	国立国会図書館支部東洋文庫長	S.46.11.7.逝去（退任）（S.35.12.東洋文庫理事就任）
梅原　末治	〃	京都大学名誉教授	S.39.3.31.退任（S.30.6.東洋文庫評議員就任）
金倉　圓照	〃	東北大学教授	S.39.3.31.退任
杉本　直治郎	〃	広島大学名誉教授	S.39.3.31.退任
塚本　善隆	〃	京都大学人文科学研究所教授	S.55.1.31.逝去（退任）
辻　　直四郎	〃	東京大学教授	S.54.9.24.逝去（退任）（S.38.12.東洋文庫評議員就任　S.39.5.理事就任　S.47.4.理事長就任）
津田　左右吉	〃	日本学士院会員	S.36.3.31.退任
仁井田　陞	〃	東京大学東洋文化研究所教授	S.41.6.22.逝去（退任）
原田　淑人	〃	日本学士院会員	S.39.3.31.退任
福井　康順	〃	早稲田大学教授	H.3.1.21.逝去（退任）
藤田　亮策	〃	奈良国立文化財研究所長	S.36.3.31.退任
松本　信広	〃	慶應義塾大学教授	S.56.3.8.逝去（退任）
宮崎　市定	〃	京都大学教授	H元.11.21.退任
村田　治郎	〃	京都大学教授	S.39.3.31.退任
山本　達郎*	〃	東京大学教授	（S.30.6.東洋文庫理事就任，現在に至る）
和田　　清	〃	東京大学名誉教授	S.38.6.22.逝去（退任）（S.19.4.東洋文庫理事就任　S.32.6.専務理事就任）
榎　　一雄	S.37年４月１日	東京大学教授	H.元.11.5.逝去（退任）（S.32.12.東洋文庫評議員就任　S.35.12.専務理事就任　S.60.6.理事長就任）
鈴木　　俊	〃	中央大学教授	S.50.7.25.逝去（退任）
吉川　幸次郎	〃	京都大学教授	S.55.4.8.逝去（退任）
板野　長八	S.40年４月１日	広島大学教授	S.51.3.31.退任

氏　名	委嘱年次	委嘱時現職	備　　考
岩生　成一	S.40年４月１日	法政大学教授	S.63.３.21.逝去（退任）
江上　波夫*	〃	東京大学東洋文化研究所教授	（現在に至る）
貝塚　茂樹	〃	京都大学人文科学研究所教授	S.62.２.９.逝去（退任）
長尾　雅人*	〃	京都大学教授	（現在に至る）
森　　鹿三	〃	京都大学人文科学研究所教授	S.55.８.10.逝去（退任）
市古　宙三*	S.52年４月１日	お茶の水女子大学学長	（S.56.６.東洋文庫理事就任，現在に至る）
栗原　朋信	〃	早稲田大学教授	S.54.９.２.逝去（退任）
中嶋　　敏*	〃	大東文化大学教授	（S.56.６.東洋文庫評議員就任，現在に至る）
日比野　丈夫*	〃	京都大学教授	（S.56.６.東洋文庫評議員就任，現在に至る）
植村　清二	S.54年10月１日	国士館大学客員教授	S.56.５.31.退任
阿部　隆一	S.56年６月２日	慶應義塾大学教授	S.58.１.22.逝去（退任）（S.56.６.東洋文庫評議員就任）
本田　實信*	〃	京都大学教授	（現在に至る）
小川　環樹	S.56年７月13日	京都産業大学教授	S.62.12.１.退任
佐藤　　長*	〃	佛教大学教授	（現在に至る）
入矢　義高*	S.62年12月10日	花園大学客員教授	（現在に至る）
尾崎　　康*	H.元年4月1日	慶應義塾大学教授	（現在に至る）
竺沙　雅章*	〃	京都大学教授	（現在に至る）
斯波　義信*	H.２年6月1日	東京大学東洋文化研究所教授	（H.２.６.東洋文庫理事就任，現在に至る）
西田　龍雄*	〃	京都大学教授	（現在に至る）

（平成３年３月末現在　委員13人）

財団法人東洋文庫組織図



V 東洋文庫維持会

本維持会は，財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので，現在の会員は下記の通り38社である。会員には普通会員（個人），賛助会員（個人又は法人・団体），及び特別会員があり，特別会員を除き年会費（普通会員１口５千円以上，賛助会員１口50千円以上）を納入する。

財団法人東洋文庫維持会会員名簿

三菱重工業株式会社	キリンビール株式会社
株式会社三菱銀行	三菱瓦斯化学株式会社
三菱商事株式会社	株式会社ニコン
三菱電機株式会社	三菱油化株式会社
旭硝子株式会社	三菱製紙株式会社
三菱地所株式会社	三菱アルミニウム株式会社
三菱化成株式会社	三菱製鋼株式会社
三菱石油株式会社	三菱樹脂株式会社
三菱鉱業セメント株式会社	三菱化工機株式会社
三菱レイヨン株式会社	三菱建設株式会社
三菱金属株式会社	三菱電線工業株式会社
三菱信託銀行株式会社	小田急電鉄株式会社
明治生命保険相互会社	株式会社日立製作所
三菱自動車工業株式会社	戸田建設株式会社
日本郵船株式会社	日本信託銀行株式会社
三菱倉庫株式会社	本田技研工業株式会社
株式会社竹中工務店	エーザイ株式会社
東京急行電鉄株式会社	株式会社西武百貨店
日興証券株式会社	
東京海上火災保険株式会社	計　38社

（平成３年３月31日現在　敬称略・順不同）

VI　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概　要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の文化・社会の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし，東アジアの文化の研究の促進及びその研究成果の普及を図る。

1．情　報　活　動

【概　要】 アジア諸地域の文化・社会に関する情報を組織的かつ継続的に収集，交換するため，また，研究機関相互間の協力を活発化させるため，国内外の諸研究機関との緊密な連絡をはかる。

1—1．国内研究機関との連絡

【概　要】 国内のアジア研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集・整理し，公開するとともに，研究機関・研究者相互間の交流を促進する。

【事業内容】

(1)　国内研究機関の情報の収集

研究機関をリストアップし，その活動状況に関する聴き取り調査を15機関について行った。また，研究機関が発行する要覧・紀要などの収集をした。

(2)　国内研究者名簿の作成

研究者名簿の収集及び整理を行い，研究者別のカード化を進め，「日本におけるアジア・北アフリカ史研究者名簿」の編集・出版を行った。

1—2．国外研究機関の情報の収集・整理

【概　要】 中国をはじめとするアジア諸国の人文・社会科学関係の研究機関の情報を組織的に収集・整理し，国際的な学術交流のための基本的資料とする。

【事業内容】

(1)　国外研究情報の収集

(1)—A．今年度調査国の研究機関，研究状況等についての資料収集をし，アジア関係研究機関の訪問調査をした。訪問調査の対象国・派遣調査員・調査期間は以下の通りである。

台　　湾：	大井　剛（センター調査外事室長）	2月25日—3月1日
中華人民共和国：	佐藤次高（東京大学文学部教授）	3月5日—3月20日
	中嶋幹起（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授）	3月5日—3月30日
インドネシア：	弘末雅士（天理大学外国語学部専任講師）	3月16日—3月30日

(1)—B．研究会の開催

3月13日　斯波義信　東京大学東洋文化研究所教授　「三十年の回憶」

会場：東洋文庫会議室　　出席者：11名

(1)—C．外国人研究者，各種専門家に対する便宜供与

今年度1—2—(1)—B及び1—2—(2)に記載の外国人研究者以外でセンターを訪れ，センターが情報等の便宜供与を行った外国人研究者は以下の通りである。

照　那　斯　圖	中国社会科学院民族研究所所長，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所客員教授
Riqal Chaniago	Research staff, The National Archives of Indonesia, Jakarta, Indonesia
Umesh Jaideo Pawankar	Chief curator, Raja Dinkar Kelkar Museum, Pune, India
Alfred Khalikov	Professor, Faculty of History, Kazan State University, Kazan, USSR
Heinz Bechert	Professor, Seminar für Indologie und Buddhismuskunde, Universität Göttingen, Germany
Metin Sözen	Professor, Faculty of Architecture, Istanbul Technical University, Turkey
Muhammad Adnan Bakhit	Professor, History Department, University of Jordan, Amman, Jordan
Muhammad Amin	Professor, Faculty of History, Cairo University, Egypt

Munira Shaheedi (Ms)	Director, Shaheedi Museum of Musical Culture, Dushanbe, Tadjikistan, USSR
呉　　星	韓国世宗大学校人文大学教授
金　東　哲	韓国釜山大学校人文大学助教授
馮　幗　兒 (Ms)	東京大学大学院（人文科学）
Rujaya Abhakorn	Director, Chiang Mai University Library, Thailand
許　政　雄	東京学芸大学大学院
Jean Kehoe (Ms)	東京大学大学院（医学）
Gudrun Bühnemann (Ms)	名古屋大学文学部
曹　永　和	台湾中央研究院中山人文社会科学研究所兼任研究員
張　聲　震	中国広西少数民族古籍整理出版辨公室
喩　忠　猷	中国四川省民族研究所副教授
張　有　隽	中国広西民族学院民族研究所所長

(1)—D．ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存

ユネスコより寄託されたアジア諸国の歴史的資料のマイクロフィルムのうち，マレーシアの部及びネパールの部より計60リールの複製を作成した。

(2) 海外専門家の招聘

余振貴　　中国，寧夏社会科学院中東イスラム研究所所長

招聘期間：11月25日—12月4日

1—3．学術情報の提供

【概　要】 収集した学術情報を，directory，bibliography 等として英文で刊行し，内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 海外研究機関一覧の編集

台湾，中国，インドネシア，タイ及びインドに存在するアジア関係研究機関のリストの作成及び資料収集を行った。

(2) 「日本におけるアジア研究機関一覧」の編集・出版

国内研究機関のリストの作成及び資料収集を行った。

(3) 文献目録の編集・出版

「ベトナム書誌」の原稿の校閲を昨年度に引続き川本邦衛慶応義塾大学言語文化研究所教授に依頼した。

「日本における中東・イスラーム研究文献目録」編纂の基礎となる関係諸分野の文献目録の収集・整理，及び目録記載予定文献のコンピュータ入力を行った。

(4) 我が国におけるアジア研究の現状の調査の編集・出版

「日本における東洋学の回顧と展望　1973-1983　アジアの部」の編集と下記の出版を行った。

"Japanese Studies on Ancient West Asian and North African History, 1973-1983"　前田徹著（Part II-25）

2. 研究成果の英文出版

【概　要】 アジア諸地域の文化・社会に関する資料及び研究の成果を英文で出版し，東アジアをはじめとする諸地域の関係研究者並びに研究機関に周知する。

【事業内容】

(1) 機関誌 "Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review" の編集・出版

編集委員　　北村 甫（編集長），池端雪浦，梅村 坦，佐藤次高，中里成章，浜下武志，山内弘一，山崎元一，石井米雄（adviser）

アジア地域を対象とする人文・社会科学の世界各国における研究動向の紹介，及びセンターの活動に関係する報告を掲載する。本年度は No. 1（vii＋204p）の編集・出版を行った。

編集委員会

5月12日　　機関誌（新シリーズ）の名称及び創刊号の掲載内容を検討した。

11月 9 日　　機関誌の名称を決定し，No. 1 及びNo. 2 以降の掲載内容を検討した。

3月12日　　No. 2 以降の掲載内容を検討した。

(2) 「アジアの歴史的都市」の編集・出版

下記のシリーズ第 2 巻の編集・出版を行った。

"The Historic City of Nara: An Archaeological Approach"「平城京」坪井清

足，田中琢著。D. W. Hughes, G. L. Barnes 訳

(3) 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

専門委員　石井米雄，佐藤次高，武田幸男，立川武蔵，御牧克己，湯山 明

専門委員会　同叢書の編集・出版計画について6月9日，11月17日に専門委員会を開催し，検討した。

下記2冊の編集・出版を行った。

"The Ngor Mandalas of Tibet: Listings of Mandala Deities"「ゴル寺マンダラ集成 解説篇」ソナム・ギャツォ著，立川武蔵等編

"Niṣpannayogāvalī: Two Sanskrit Manuscripts from Nepal"「完成せるヨーガの環」G. Bühnemann，立川武蔵編

(4) 「タイ国舞台芸術史」の編集

「タイ国舞台芸術史」(Mattani Rutnin 著) の編集を進めた。

3. 調査研究及び普及活動

【概　要】 国内の他の研究機関の調査研究・普及その他の活動を補足し，センターを事務局とすることが効果的であると認められる事業を企画，運営する。

(1) 「第30回語学講習会」

「タミル語講習会」を開催した。

期　間：平成2年7月24日(火)～8月31日(金)　午前9時30分～12時30分
　　(日・月曜日を除く)

会　場：東洋文庫3階会議室

講　師：山下博司 (山形大学助教授)
　　マーリニ・スブラマニヤン

修了者：8名

(2) 一般普及活動

センターの活動についての問い合わせに応じ，また出版物の寄贈交換を行った。さらに「ニューズレター」No.2を編集・刊行した。

(3) 出版物の受賞

"Capital Accumulation in Thailand, 1855-1985"「タイにおける資本蓄積 1855-1985年」末廣昭著（1989年3月刊）

平成2年11月8日，上記図書について著者ならびに出版者は「1990年度（第33回）日経・経済図書文化賞」（日本経済新聞社，日本経済研究センター主催）を受けた。これに先立ち，平成2年6月12日，上記図書について著者は「第6回大平正芳記念賞」（大平正芳記念財団主催）を受けた。

4. 業　務　報　告

A. 運営委員会・顧問会議・運営小委員会

運営委員会

前　期　開 催 日　平成２年５月22日（火曜日）　午後１時30分～２時50分
　　場　　所　東洋文庫会議室
　　出席委員　６名　　委任状14名
　　報　　告　1.　人事について
　　参与の再任について
　　運営委員の委嘱・改選について
　　副所長の退任について
　　調査外事室長の交代について
　　議　　題　1.　平成元年度事業報告及び決算報告について
　　2.　平成２年度事業計画案及び収支予算案について

後　期　開 催 日　平成２年11月20日（火曜日）　午後１時30分～２時40分
　　場　　所　東洋文庫会議室
　　出席委員　６名　　委任状12名
　　報　　告　1.　人事について
　　2.　その他
　　a．日経・経済図書文化賞の受賞について
　　b．文部省学術国際局国際学術課長との会談について
　　議　　題　1.　平成２年度事業中間報告及び収支状況報告について
　　2.　平成３年度事業計画案及び収支予算案について
　　3.　その他
　　特別職員給与規程について

顧問会議

　　開 催 日　平成２年５月22日（火曜日）　午後１時30分～２時50分
　　場　　所　東洋文庫会議室

出席委員　1名　　委任状2名

報　　告　1.　人事について

参与の再任について

運営委員の委嘱・改選について

副所長の退任について

調査外事室長の交代について

議　　題　1.　平成元年度事業報告及び決算報告について

2.　平成2年度事業計画案及び収支予算案について

3.　副所長の推薦について

運営小委員会

第1回　開催日　平成2年5月11日（金曜日）　午後6時～8時

場　　所　東京　味館

議　　題　平成2年度事業計画について

第2回　開催日　平成2年9月29日（土曜日）　正午～午後2時

場　　所　京都　京大会館

議　　題　平成3年度事業計画について

B．役員異動

年　月　日	役職名	氏　　名	区分	備　　考
2年 4．1	運営委員	池田　　温	就任	東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	利谷　信義	〃	東京大学社会科学研究所所長
〃	〃	矢野　　暢	〃	京都大学東南アジア研究センター所長
〃	〃	石井　米雄	〃	上智大学教授
6.30	顧　　問	川村　恒明	退任	文部省学術国際局長
〃	運営委員	長谷川善一	〃	文部省大臣官房審議官
〃	参　　与	宮崎　市定	〃	
7．1	顧　　問	長谷川善一	就任	文部省学術国際局長
〃	運営委員	岡村　　豊	〃	文部省大臣官房審議官
12.16	〃	西村　元彦	退任	〃
12.17	〃	渡辺　　伸	就任	〃
3年 3.31	〃	高木　昭作	退任	東京大学史料編纂所所長
〃	〃	谷　　泰	〃	京都大学人文科学研究所所長
〃	〃	山口　昌男	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長

C．職員異動

年　月　日	職　　名	氏　　名	区分	備　　考
2年 4．1	調　査 外事室長	大井　　剛	就職	
6．1	副 所 長	山崎　元一	就任	国学院大学教授

D．受　　章

年　月　日	役職名	氏　　名	区分	備　　考
2年 4.29	運営委員	中根　千枝	受章	紫綬褒章

E. 会計報告

平成2年度　ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（平成3年3月31日現在）

支出の部		収入の部	
科目	金額（千円）	科目	金額（千円）
事業費	27,690	国庫補助金	80,019
情報活動費	11,583	財産収入	9
国内研究機関との連絡費	1,416	雑収入	2,818
国外研究機関の情報の収集整理費	4,631		
学術情報の提供費	5,536		
研究成果の英文出版費	12,261		
調査研究及び普及活動費	3,846		
経常費	55,156		
人件費	51,949		
事務費	3,207		
計	82,846	計	82,846

5. 役 職 員 名 簿

平成3年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 所 長　北 村　　甫

B. 副所長　山 崎 元 一

C. 運営委員

氏　　名	現　　職
池 田　　温	東京大学東洋文化研究所所長
石 井 米 雄	上智大学教授
犬 丸　　直	ユネスコ・アジア文化センター理事長
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
尾 高 邦 雄	日本学士院会員・東京大学名誉教授
岡 野　　澄	財団法人井上科学振興財団常務理事・財団法人東洋文庫評議員
岡 村　　豊	文部省大臣官房審議官
河 野　　靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
佐々木 高 明	国立民族学博物館教授
高 木 昭 作	東京大学史料編纂所所長
高 田　　修	東京国立文化財研究所名誉研究員
谷　　泰	京都大学人文科学研究所所長
利 谷 信 義	東京大学社会科学研究所所長
中 根 千 枝	東京大学名誉教授・財団法人民族学振興会理事長
中 村　　元	日本学士院会員・東方学院院長・東京大学名誉教授
野 村 忠 清	国際交流基金専務理事
服 部 四 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
宗 像 善 俊	アジア経済研究所所長
矢 野　　暢	京都大学東南アジア研究センター所長
山 口 昌 男	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
山 本 達 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事
渡 辺　　伸	文部省大臣官房審議官

D. 顧　問

氏　名	現　職
天城　勲	日本ユネスコ国内委員会会長
鹿取泰衛	国際交流基金理事長
長谷川善一	文部省学術国際局長
前田充明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉教授・財団法人東洋文庫評議員

E. 参　与

氏　名	現　職
青山秀夫	日本学士院会員・京都大学名誉教授
織田武雄	京都大学名誉教授
田村實造	京都大学名誉教授
長尾雅人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
丸山真男	日本学士院会員・東京大学名誉教授

F. 専門員

John Wisnom

C. 職　員

職　名	氏　名
調査外事室長	大井　剛
普及室長	外池明江
庶務会計室長	飯田隆子
研究員	本庄比佐子　福田洋一
参事	設楽靖子　坂本葉子　小林和弘

H．臨時職員

平成２年４月１日から平成３年３月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は，以下の通りである。

相部礼子，安藤和子，飯塚正人，伊藤精和，井上和枝，今泉美代子，岩佐晶子
宇野伸浩，大河原知樹，粕谷　元，熊谷尚子，倉林康子，黒岩　高，高野太輔
後藤敦子，後藤裕加子，小松智子，近藤信彰，斎藤愛美，斉藤美津子，笹川鉄也
佐々木あや乃，佐々波智子，　佐藤健太郎，四位美穂子，島谷泰子，清水敏江
白石まどか，新免　康，高松洋一，竹野幸子，垂井弘志，徳増克己，等々力美萌
内藤陽介，長島裕史，西尾寛治，馮幗兒，藤縄智子，古瀬珠水，堀井　優
益子武士，松尾有里子，ヤマンラール・水野美奈子，森本一夫，門口朋江
山口昭彦

財団法人 東洋文庫年報 平成2年度

平成4年3月25日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫
北村 甫

印刷者 ㈱ 清菱印刷

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫